

平成18年度 総務省ICTメディアリテラシー教材

# 傳ばそう

# ICTメディアリテラシー

—つながる！わかる！伝える！これがネットだ—

ティーチャーズガイド



# はじめに

我が国においては、世界でもトップレベルの最高速・低価格の情報通信ネットワークが整備されるに至りました。このネットワークを、いつでも、どこでも、何でも、誰でも活用できる社会がユビキタスネット社会です。ユビキタスネット社会の到来により、私たちの生活はより便利になり、ライフスタイルも大きく変化すると期待されます。ユビキタスネット社会を生きていくために必要なのは、多様な ICT メディアを的確に使いこなす能力、リテラシー（ICT メディアリテラシー）です。

インターネットや携帯電話等の ICT メディアの利用は、近年急速に進展しており、子どもが携帯電話を持つ割合も高まっています。子どもの生活における ICT メディアの位置づけが急速に大きくなり、子どもが多様な情報に直接接する機会が増大しています。このことから、子どもが自律的に、的確に情報を読み解き、判断し、発信する能力を育成することが急務になっています。

こうした状況を踏まえ、今後の ICT メディアの健全な利用の促進を図り、子どもが安全に安心してインターネットや携帯電話を利用できるようにするため、ICT メディアの危険性のみならず、利便性や創造性についても子どもが同時に理解することができるように、総合的な ICT メディアリテラシーを育成できるプログラムを開発しました。

このプログラムの特徴は、次のとおりです。

- 小学校 5・6 年生が優先的に身につけるべき能力を分析・整理し、子どもたちの身近な活動から、「インターネットで調べよう」、「わくわく！ハラハラ？インターネット」、「学校のステキを伝えよう！」、「メールでけんか！どうする？」、「ケータイを持って街へ出かけよう！」という 5 つのテーマを選びました。この学習を通じて、ICT メディアにアクセスし活用する能力、主体的に読み解く能力、コミュニケーションする能力、といった総合的な ICT メディアリテラシーを効率的に育成することができます。
- セミナー学習（学校の授業や、地域で行われるセミナーなど）と、家庭学習（セミナー学習を受講した子どもが保護者と自宅等で行う復習・補習）を組み合わせ、着実な理解を図ることができるような教材です。
- 子どもの興味・関心をひきつけるため、ICT シミュレーターを開発し、体験学習の手法を取り入れました。
- 指導者の負担を軽減するため、具体的な指導方法や必要な情報を収録した「ティーチャーズガイド」と、保護者が子どもと一緒に学べるように、セミナー学習のダイジェストや解説、押さえておきたいポイントなどを収録した「家庭学習用ガイドブック」を作成しました。

このプログラムが広く活用され、全国的に ICT メディアリテラシーの育成・向上、健全なユビキタスネット社会の実現に寄与することを強く願っています。

# 目次

## ティーチャーズガイド

---

育成プログラムについて	2
本書の読み方	3
育成プログラムで取り上げている学習テーマについて	4
インターネット補助教材について	6
ICTシミュレーターの利用にあたっての留意事項	8

---

<b>インターネットで調べよう！</b>	
セミナーの概要	10
セッション1：インターネットで検索してみよう！	12
セッション2：土星の輪について調べてまとめよう！	16
セッション3：まとめたことを伝えよう！	17

---

<b>わくわく！ハラハラ？インターネット</b>	
セミナーの概要	20
セッション1：インターネットについて考えよう！	22

---

<b>学校のステキを伝えよう！</b>	
セミナーの概要	28
セッション1：デジタルカメラで写真を撮ろう！	30
セッション2：ブログを使って伝えよう！	32
セッション3：ブログでコミュニケーションしよう！	36

---

<b>メールでけんか！どうする？</b>	
セミナーの概要	40
セッション1：メールでコミュニケーションしよう！	42

---

<b>ケータイを持って街へ出かけよう！</b>	
セミナーの概要	48
セッション1：ケータイを体験してみよう！	50

---

学習テキスト　ワークシート解答	54
教材制作協力者一覧	60

# 育成プログラムについて

この育成プログラムは、ICT メディアリテラシーを向上させるために、「セミナー学習」と「家庭学習」の2つで構成されています。



セミナー学習



家庭学習

## ●セミナー学習

小学校の先生や公民館における一般セミナーの講師などが、一度に30名程度の子どもの対象に行うセミナー形式の学習です。指導者は、本書に沿って、子どもたちを指導します。セミナー学習は、1セッション45分で、導入→展開→まとめという流れで構成されています。（学習テーマ毎に、セッション数は異なります）どの学習テーマも、子どもたちは指導者の解説を聞くことで基礎知識を習得し、ICT シミュレーターでの体験を通じて、習得した知識と行動の関連づけや問題意識の喚起を行います。体験した内容の振り返りや指導者による解説を聞くことで知識の理解を深めます。

使用する教材：学習テキスト、インターネット補助教材

## ●家庭学習

セミナーを受講した子どもが自宅等で家族と一緒に学習内容を振り返る学習（復習・補習）です。学習ワークシートには、セミナー学習で取り上げられた内容に関する確認クイズや、学習テーマに沿ったインターネット利用を家族と一緒にチャレンジする課題などが盛り込まれています。これらの課題を家族と一緒にチャレンジすることを通じて、子どもたちはセミナーで学んだことに対する理解をより深めます。また、家族の方にICTメディアリテラシーの必要性やその具体的な内容について知ってもらうことも目的としています。

使用する教材：学習ワークブック、家庭学習用ガイドブック、インターネット補助教材

# 本書の読み方

本書は、指導者を対象とした ICT メディアリテラシー育成に関する指導書です。各学習テーマについて、最初の見開きでは、テーマのねらい、学習の背景、セッション構成などの情報が掲載されています。次ページ以降では、各セッションの学習目標、学習の流れ、評価の観点に掲載されています。（下の図を参照）他にも、各セッションで取り上げている学習内容に関するコラムやシミュレーターに関する解説などが盛り込まれています。

## このセッションの学習目標

このセッションの学習目標を意識しながら指導しましょう。

## 学習の流れ

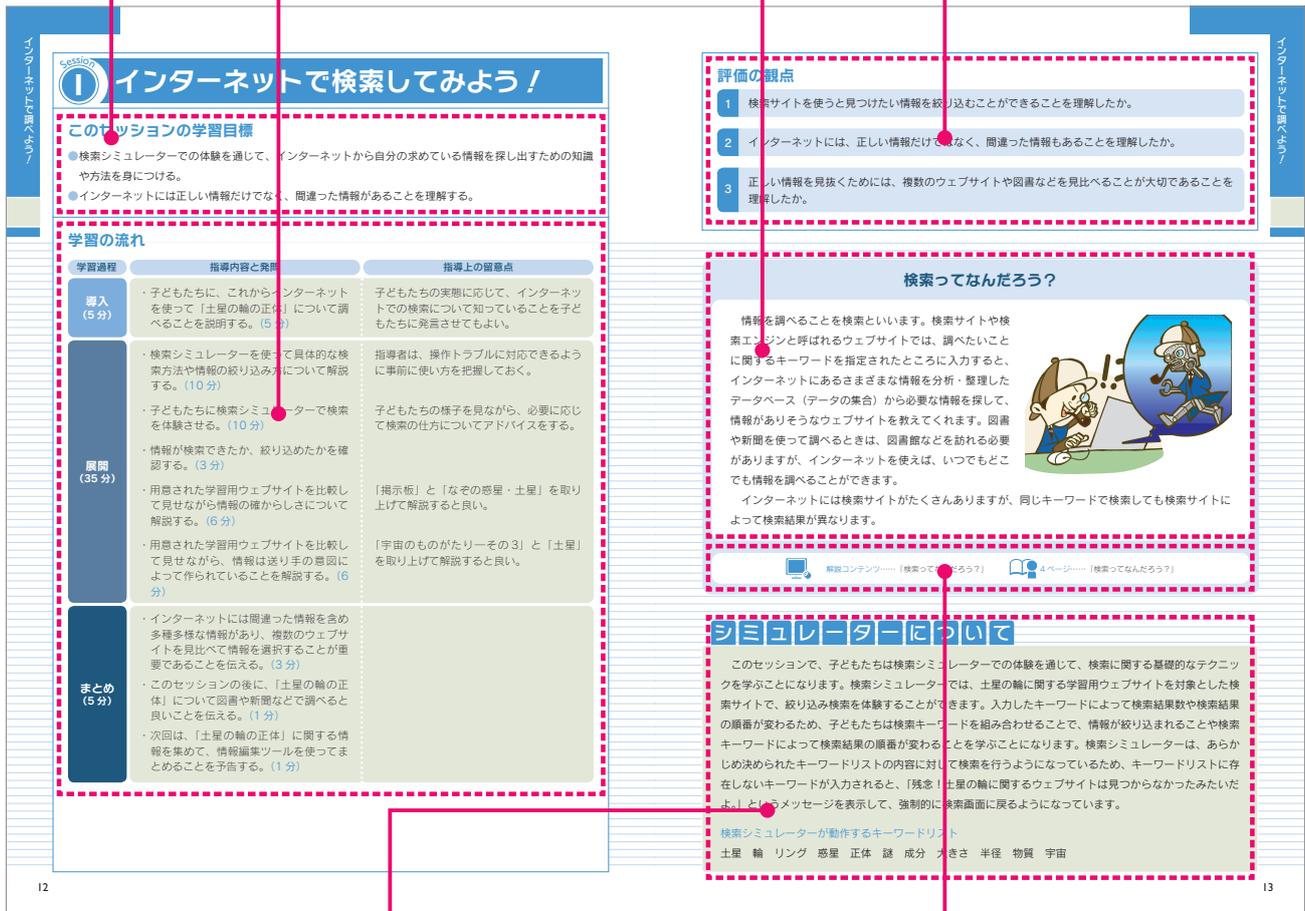
指導前に、ここに記載されている学習の流れを参考にしながら、各種教材の使用法や利用シーンについて確認しましょう。

## 学習内容に関するコラム

子どもたちには、この内容を解説コンテンツを使いながら解説しましょう。

## 評価の観点

このセッションで、子どもたちが学習目標を達成できたかについて評価するためのポイントです。



## シミュレーターに関する解説

この学習テーマで利用するシミュレーターに関する概要です。指導前にシミュレーターを使って、指導イメージを確認しましょう。

## 他の教材との対応

左側は、この学習内容を解説するときには提示する解説コンテンツの名称です。右側は、学習テキストの該当ページです。

## 育成プログラムで取り上げている学習テーマについて



### インターネットで調べよう！ ▶▶▶ (10 ページ～)

コンピューターやインターネットを活用して情報を収集・編集・伝達する力を養うために、「土星の輪の正体」をテーマとした検索シミュレーターでの体験や学習用ウェブサイトを使った調べ学習を通じて、インターネットで情報を効率的に収集する方法や、正しい情報や事実を見極める方法、分かりやすい発表の仕方について学びます。



45分×3セッション (計135分)



総合



調べ学習



### わくわく！ハラハラ？インターネット ▶▶▶ (20 ページ～)

インターネットを自分の生活の中で活用する力を養うために、解説コンテンツの視聴や迷惑メールシミュレーターでの体験を通じて、インターネットの特性や便利なウェブサービス、インターネットを利用する上で気をつけなければいけないことなどについて学びます。



45分×1セッション (計45分)



道徳・家庭科



体験学習



### 学校のステキを伝えよう！ ▶▶▶ (28 ページ～)

自分の意見や考えを分かりやすく伝える力や、思いやりをもってコミュニケーションする力を養うために、ブログを使った情報発信やインターネットでのコミュニケーションを体験することを通じて、インターネットで情報を発信する方法や、情報を受発信するためのルールやマナーについて学びます。



45分×3セッション (計135分)



総合



体験学習



## メールでけんか！ どうする？ ▶▶▶ (40 ページ～)

インターネットの先にいる相手のことを考えながらメールでコミュニケーションする力を養うために、メールシミュレーターや、けんか・仲直りシミュレーターでメールによるけんかのやりとりを疑似体験することを通じて、メールの仕組みや特性、メールを気持ちよく使うためのルールやマナーについて学びます。



45分×1セッション (計45分)



道徳



体験学習



## ケータイを持って街へ出かけよう！ ▶▶▶ (46 ページ～)

携帯電話を安全に利用する力を養うために、お使いシミュレーターを使った携帯電話利用の疑似体験を通じて、携帯電話の機能や使い方、利用にあたってのルールやマナー、気をつけなければいけないことなどについて学びます。



45分×1セッション (計45分)



総合・道徳・家庭科



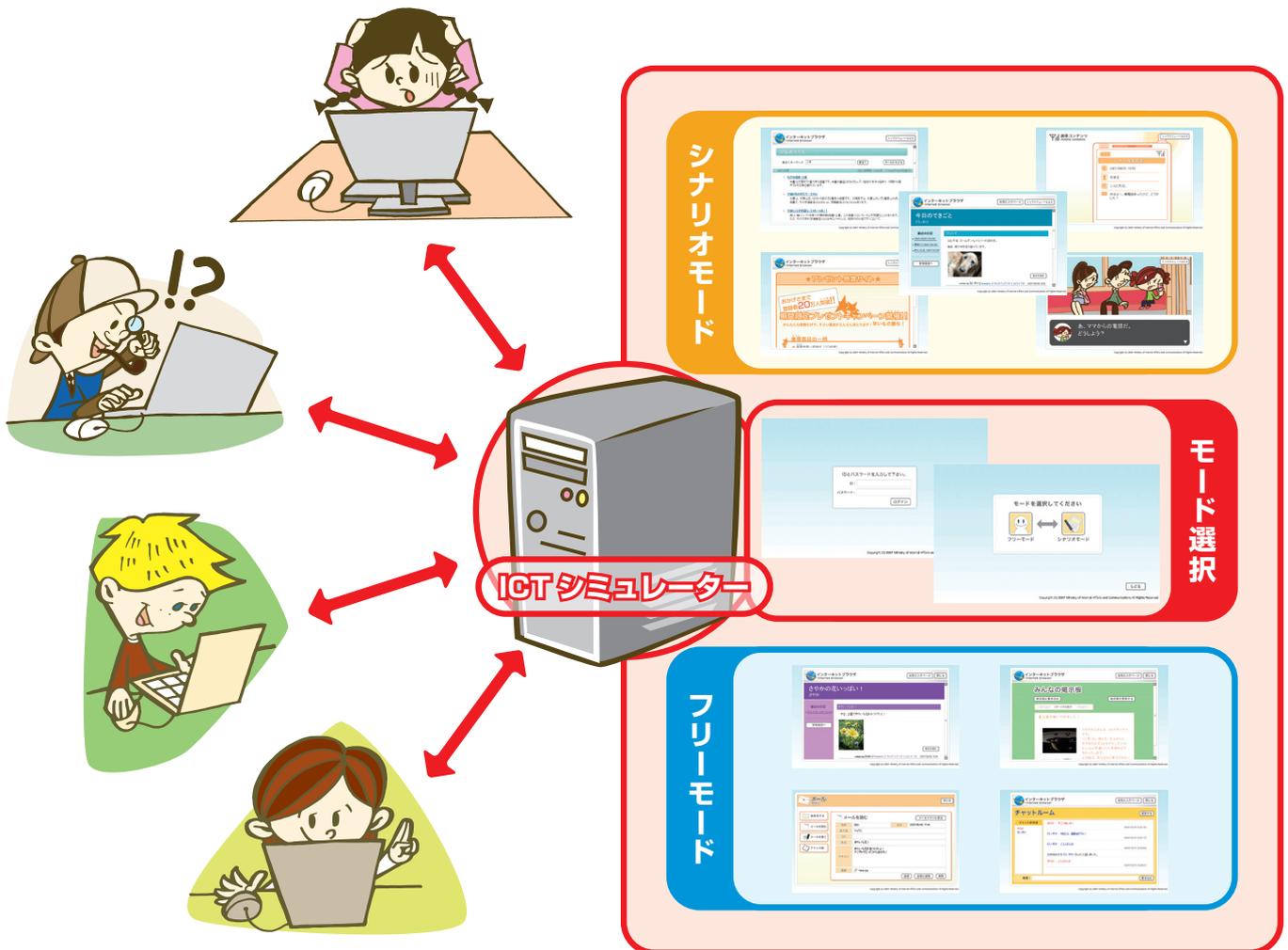
体験学習

# インターネット補助教材について

この育成プログラムには、5つの学習テーマの指導を実現するためのデジタルコンテンツが用意されています。(インターネット補助教材を利用するためには、インターネットへ接続できるコンピューターが必要です)

## ● ICT シミュレーター

育成プログラムでの疑似体験を実現するために作られたインターネットの教育用シミュレーターです。このシミュレーターは、各学習テーマの内容に沿った疑似体験が行える「シナリオモード」と、指導者が学習テーマの流れの制約を受けることなく、インターネットでのコミュニケーション活動を取り入れた指導を自由に行える「フリーモード」が用意されています。どちらのモードについても、子どもたちは指導者の管理の下で、ブログやメール、チャットなどのコミュニケーションツールでのやりとりを安全かつリアルに体験することができます。



※ ICT シミュレーターの利用にあたっては、指導者の方が利用者登録を行う必要があります。

## ●解説コンテンツ

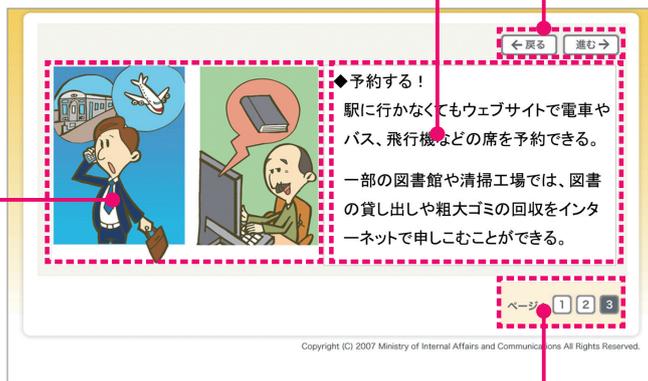
各学習テーマの中で取り上げられている内容を解説するためのデジタルコンテンツです。学習内容毎に解説テキストとイラスト（または図）で構成されています。基本的には、各学習テーマの流れに沿ってコンテンツを提示できるようになっていますが、指導者の皆さんがこの育成プログラムの学習テーマにとらわれることなく、教育素材として利用できるようになっています。

### 解説テキスト

コンテンツの解説テキストです。  
行数が多いときは、右側にスクロールバーが表示されます。

### コンテンツ切り替えボタン群

“戻る” ボタンをクリックすると、前のコンテンツが表示されます。  
“進む” ボタンをクリックすると、解説テキスト次のコンテンツが表示されます。



### 解説図

解説用のイラストや写真です。  
クリックすると、この画面の上に解説図を拡大表示します。  
(右の図を参照)



### ページ切り替えボタン群

数字アイコンをクリックすると、コンテンツ内の該当ページが表示されます。(灰色の数字アイコンが現在表示されているページです)

## インターネット補助教材の動作環境

(指導者用コンピューター・子ども用コンピューター共通)

Windows	
CPU	Intel® Pentium® II 450 MHz 以上
RAM (メモリ)	128MB 以上
OS	Microsoft Windows 2000 Professional、XP 以上
WWW ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 6.0 以上、Mozilla Firefox1.5 以上
プラグイン	Adobe Flash Player 8.0 以上
通信環境	1.0Mbps 以上の速度でインターネットへ接続できること

Macintosh	
CPU	CPU : PowerPC® G3 500MHz 以上のプロセッサ、IntelCore Duo 1.83GHz クラス以上のプロセッサ
RAM (メモリ)	128MB 以上
OS	Apple Mac OS X 10.1.x/10.2.x/10.3.x/10.4.x 以上
WWW ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 5.2 以上、Mozilla Firefox1.5 以上
プラグイン	Adobe Flash Player 8.0 以上
通信環境	1.0Mbps 以上の速度でインターネットへ接続できること

# ICT シミュレーターの利用にあたっての留意事項

## ●子どもたちに ID とパスワードの大切さを指導し、しっかり管理させる

ICT シミュレーターを利用するには、ID とパスワードの入力が必要です。これは外部からの不正利用を防ぎ、学習内容や書き込まれた個人情報を守るための手順ですので省略することができません。ID とパスワードを入力する際には、先生や保護者が行ってしまうのではなく、必ず子どもたちに入力さましよう（できれば ID とパスワードは異なる文字であることが望ましい）。子どもたちには、ID やパスワードは、現実世界に例えると「家の鍵」に相当するものであることを伝え、他の人に知られないようにしっかり管理することを教えましょう。

## ●子どもたちに好き勝手に利用させない

ICT シミュレーターを使ってセミナーや授業を行うときは、子どもたちが勝手に利用してしまわないように、指導者が必ず傍らから適切に助言するようにしてください。子どもたちだけで好き勝手に利用しはじめてしまうと、トラブル発生場面を出すのをおもしろがったり、ゲームをするようにすべてのパターンを見てみたくなったりします。やみくもにボタンをクリックしたり、適当に選択して話を先に進めてしまったりしては授業が立ち行かなくなってしまうので気をつけましょう。

## ●事前に内容について把握しておく

ICT シミュレーターを使ってセミナーや授業を行うときは、必ず事前に内容に目を通しましょう。子どもたちが自分たちに都合良く解釈してしまわないように、要所要所で場面を止めて注釈を入れるなどの工夫が必要だからです。一通り見終わってから感想を聞くのではなく、一つの場面に区切りが付いたところで、「どうしてこの子は、こんな行動をしてしまったのだろう」、「どうすれば問題は防げたのだろう」、「もっと便利なことはないだろうか」などのような思考や気づきを促せるように、予習しておくことが望ましいでしょう。

## ●シミュレーター上での子どもたちの書き込みに常に気を配る

掲示板やブログなどのコミュニケーションツールで行われる子どもたちのやりとりについて、十分気を配りましょう。注意したにもかかわらず、子どもが逸脱した書き込みをしてしまうということがあります。その時も単に叱りつけるのではなく、どうしてそのような内容を書き込む気になったのか、書いたことによって起こる問題はどんなことがあるのかを尋ねたり考えさせたりしましょう。「指導者の見ている前だけでは書かない子」にならないようにしましょう。

## ●シミュレーターは、練習の場なので失敗が許される場であることを知らせる

ICT シミュレーターは、セミナー参加者や子どもたちの家族以外、アクセスすることができないため、誤って間違った情報を発信しても、一般の人に迷惑をかけることはありません。子どもたちが失敗を恐れて、萎縮してしまわないように、セミナーや授業を行う前には、ICT シミュレーターは失敗が許される場であることを子どもたちに伝えましょう。

## ティーチャーズガイド

# 本編

インターネットで調べよう！ 10～

わくわく！ハラハラ？インターネット 20～

学校のステキを伝えよう！ 28～

メールでけんか！どうする？ 40～

ケータイを持って街へ出かけよう！ 46～



# インターネットで調べよう！

## セミナーのねらい

- ・ 検索シミュレーターでの体験や同じ情報を扱った複数のウェブサイトを見比べることを通じて、インターネットから必要な情報を批判的に収集する力を養う。
- ・ 同じ情報を扱った複数のウェブサイトを見比べることを通じて、ICTメディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く力を養う。
- ・ 複数のウェブサイトにある情報をまとめて発表することを通じて、情報を編集・処理・伝達する力を養う。

## セミナーを行うにあたって

所要時間 45分×3セッション（合計135分） 学習形態 調べ学習

定員 1クラス30～40人

### 使用する教材・機材

コンピューター（インターネットに接続できること）	1人1台
プロジェクターなどの大型提示装置	1台（複数あることが望ましい）
ティーチャーズガイド	1冊
学習テキスト	参加人数分
情報編集ツール （文章編集ソフトやプレゼンテーションソフトなど）	参加人数分
プリンター	コンピューター5台に1台以上
インターネット補助教材	1式

## 学習の背景

日常生活では、よく情報収集を行います。インターネットが普及したことで、世間では検索サイトで情報を検索する人が増えているようです。ところが、インターネットには悪意のある人が書いたウソや知識に乏しい人が書いた不確かな情報、うわさなどがあり、インターネットを使っている人はそのような情報にまどわされてしまうことがあります。一方、テレビや新聞、雑誌や図書などから得られる情報は、送り手の意図や考えに基づいて、情報が切り取られていたり、事実を誤認させるような表現になっていることがあります。これからの社会を賢く豊かに生きるためには、メディアや人を通じて得た情報について、自分で責任をもって取捨選択することが求められています。

このセミナーでは、コンピューターやインターネットを活用して情報を収集・編集・伝達する力を養うため、子どもたちは「土星の輪の正体」をテーマに、インターネットで情報を効率的に収集する方法や事実を読み解く方法、さらには分かりやすい発表の仕方について学びます。

## セミナーの概要

### Session 1

#### インターネットで検索してみよう！

検索シミュレーターを体験することで、インターネットでは検索サイトを使うことで見つけたい情報を絞り込めることを学びます。さらに、複数のウェブサイトと比較することで、正しい情報や送り手の意図を読み解くことについて学びます。



### Session 2

#### 土星の輪について調べてまとめよう！

ウェブサイトや図書などを使って、土星の輪の正体について調べ、プレゼンテーションソフトや文書編集ソフトなどの情報編集ツールを使って、資料をまとめます。まとめるにあたっては、引用の方法や分かりやすい資料の作り方について事前に学びます。



### Session 3

#### まとめたことを伝えよう！

自分で作った資料をもとに、土星の輪の正体についてグループに分かれて発表します。他の人の発表内容に対して、自分の感想や意見を発言したり、他の人から言われた感想や意見をもとに、作った資料や発表方法をより良くする方法について考えたりします。



## セミナー実施にあたってのアドバイス

このセミナーは3セッションで構成されていますが、子どもたちの実態に応じて、セッション1のみを取り上げたり、セッション2・3だけを取り上げたりすることができます。特にセッション2・3だけで実施する場合は、メディアリテラシーに関する事前学習を行っておく必要があるため、注意が必要です。

また、このテーマを指導するにあたって、指導者の方は資料の作成で使用する情報編集ツールの操作方法についてしっかり覚えておく必要があります。もし、子どもたちが情報編集ツールの操作方法を習得していない場合は、資料を手書きで作らせても構いません。

# Session 1

## インターネットで検索してみよう！

### このセッションの学習目標

- 検索シミュレーターでの体験を通じて、インターネットから自分の求めている情報を探し出すための知識や方法を身につける。
- インターネットには正しい情報だけでなく、間違っただけの情報があることを理解する。

### 学習の流れ

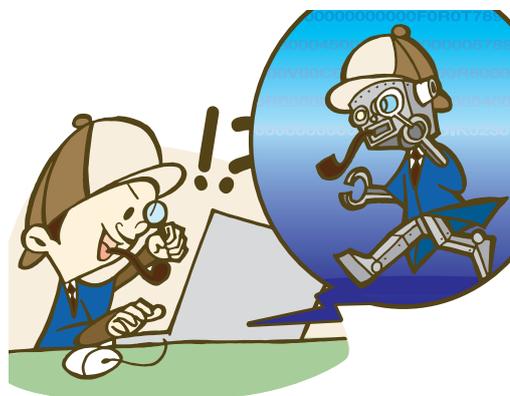
学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちに、これからインターネットを使って「土星の輪の正体」について調べられることを説明する。(5分)</li> </ul>	<p>子どもたちの実態に応じて、インターネットでの検索について知っていることを子どもたちに発言させてもよい。</p>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検索シミュレーターを使って具体的な検索方法や情報の絞り込み方について解説する。(10分)</li> <li>・ 子どもたちに検索シミュレーターで検索を体験させる。(10分)</li> <li>・ 情報が検索できたか、絞り込めたかを確認する。(3分)</li> <li>・ 用意された学習用ウェブサイトと比較して見せながら情報の確からしさについて解説する。(6分)</li> <li>・ 用意された学習用ウェブサイトと比較して見せながら、情報は送り手の意図によって作られていることを解説する。(6分)</li> </ul>	<p>指導者は、操作トラブルに対応できるように事前に使い方を把握しておく。</p> <p>子どもたちの様子を見ながら、必要に応じて検索の仕方についてアドバイスをする。</p> <p>「掲示板」と「なぞの惑星・土星」を取り上げて解説すると良い。</p> <p>「宇宙のものがたりーその3」と「土星」を取り上げて解説すると良い。</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットには間違っただけの情報を含め多種多様な情報があり、複数のウェブサイトを見比べて情報を選択することが重要であることを伝える。(3分)</li> <li>・ このセッションの後に、「土星の輪の正体」について図書や新聞などで調べると良いことを伝える。(1分)</li> <li>・ 次回は、「土星の輪の正体」に関する情報を集めて、情報編集ツールを使ってまとめることを予告する。(1分)</li> </ul>	

## 評価の観点

- 1 検索サイトを使うと見つけたい情報を絞り込むことができることを理解したか。
- 2 インターネットには、正しい情報だけではなく、間違った情報もあることを理解したか。
- 3 正しい情報を見抜くためには、複数のウェブサイトや図書などを見比べることが大切であることを理解したか。

## 検索ってなんだろう？

情報を調べることを検索といいます。検索サイトや検索エンジンと呼ばれるウェブサイトでは、調べたいことに関するキーワードを指定されたところに入力すると、インターネットにあるさまざまな情報を分析・整理したデータベース（データの集合）から必要な情報を探して、情報がありそうなウェブサイトを教えてくれます。図書や新聞を使って調べるときは、図書館などを訪れる必要がありますが、インターネットを使えば、いつでもどこでも情報を調べることができます。



インターネットには検索サイトがたくさんありますが、同じキーワードで検索しても検索サイトによって検索結果が異なります。



解説コンテンツ……「検索ってなんだろう？」



4ページ……「検索ってなんだろう？」

## シミュレーターについて

このセッションで、子どもたちは検索シミュレーターでの体験を通じて、検索に関する基礎的なテクニックを学ぶこととなります。検索シミュレーターでは、土星の輪に関する学習用ウェブサイトを対象とした検索サイトで、絞り込み検索を体験することができます。入力したキーワードによって検索結果数や検索結果の順番が変わるため、子どもたちは検索キーワードを組み合わせることで、情報が絞り込まれることや検索キーワードによって検索結果の順番が変わることを学ぶこととなります。検索シミュレーターは、あらかじめ決められたキーワードリストの内容に対して検索を行うようになっているため、キーワードリストに存在しないキーワードが入力されると、「残念！土星の輪に関するウェブサイトは見つからなかったみたいだよ。」というメッセージを表示して、強制的に検索画面に戻るようにしています。

### 検索シミュレーターが動作するキーワードリスト

土星 輪 リング 惑星 正体 謎 成分 大きさ 半径 物質 宇宙

## 上手に検索するコツ

インターネットには、ウェブサイトが無数に存在し、計り知れない量の情報が公開されています。検索サイトがあるとはいえ、情報の海ともいえるインターネットから自分が求めている情報を簡単に見つけられるとは限りません。ここでは、小学5・6年生でも実践できる検索のコツについて教えます。

### ●キーワードを組み合わせる

検索サイトは、キーワードを複数指定することで、検索結果を絞り込むことができます。例えば、アサガオの育て方について調べたいときは、単に「アサガオ」で検索するよりも、「アサガオ 育て方」（キーワードとキーワードの間に1つスペースを入れる）で検索した方が、目的の情報をより簡単に見つけることができます。

### ●キーワードを別の言葉で言い換えてみる

例えば、携帯電話について調べたいとき、「携帯電話」で検索した場合と、「ケータイ」で検索した場合は、検索結果が大きく変わります。これは、検索サイトが同じものでも呼び方が変わると別のものとして解釈することが原因で起こります。探している情報がうまく見つからないときは、キーワードを言い換えてみると見つかることもあります。



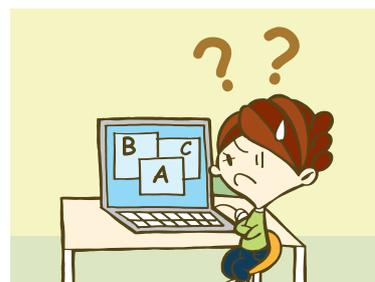
解説コンテンツ……「上手に検索するコツ」



5 ページ……「上手に検索するコツ」

## 正しい情報を見抜こう！

インターネットでは、大人から子どもまで、さまざまな人がブログやメール、ウェブサイトを使って情報を自由に受発信しています。インターネットにある情報は、先生や研究者などの専門家がまとめた信頼性の高いものだけでなく、企業の広告や普通の人々がまとめたもの、ウソやうわさといった根拠のないものなど千差万別です。インターネットを使って調べるときは、1つのウェブサイトを基準に同じような情報を公開している複数のウェブサイトを比較していくと正しい情報を見つけることができます。同じ事柄でも、ウェブサイトによって伝えている内容が違えば、どちらか一方が間違っているかもしれません。そのような場合、さらに他のウェブサイトや、新聞や図書などの別のメディアでも調べ、多数決で正しい情報を見極めることが有効です。ただし、珍しい情報や新しい情報の場合、多くの人々が取り上げていたからとはいえ正しいとは限らないので注意が必要です。



子どもたちには、何かについて調べるときは、いろいろなウェブサイトを見たり、図書や新聞などの他のメディアを見たりして、その情報が正しいかどうかしっかり確認する意識をもたせるようにしましょう。



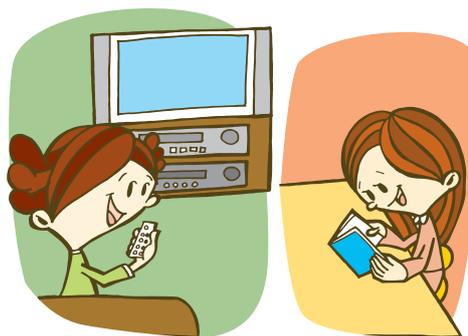
解説コンテンツ……「正しい情報を見抜こう！」



5 ページ……「正しい情報を見抜こう！」

## この情報がすべてかな？

インターネットには、ものの重さや長さのような客観的な情報や、個人の意見や考えといった主観的な情報など、さまざまな性質の情報があります。これらの情報は、すべて送りが手が意図を持って編集しています。たとえば、商品のチラシやパンフレットを作る場合、商品の良い点については多くの人に知ってもらうために記載しますが、悪い点についてはあまり知られたくないため意図的に記載しないのが一般的です。テレビのワイドショーやニュース番組の場合、時間的制約やテレビ局の方針によって、話題性のある内容だけを断片的に取り上げて伝えることがあります。内容によっては、良いことも悪いことのように伝わってしまうこともあります。これらの例のように、1つの情報だけを鵜呑みにしてしまうと、本当に必要な情報を入手できなかったり、事実を誤認してしまうことがあるということです。



子どもたちには、知りたいことについてインターネットで検索したり、図書などで調べる際、1つの情報を鵜呑みにせず、さまざまな情報を見て、できるだけ多くの情報を集めることを教えましょう。



解説コンテンツ……「この情報がすべてかな？」



6 ページ……「この情報がすべてかな？」

## ウソやうわさにまどわされないように

インターネットには、ブログや掲示板にウソやうわさを書き込む人がいます。中には、ウソだけで塗り固められたウェブサイトを作るとんでもない人もいます。このような人は、誰かに嫌な思いをさせたり、たくさんの人から注目してもらったりするためにウソやうわさを書き込むようです。ところが、インターネットを使って正しい情報を集めようとしている人にとって、ウソやうわさは正しい情報であるかどうかの判断を混乱させるだけのとても迷惑な存在です。インターネットの特性について知っている大人であれば、他の情報と比較したり、これまでの経験でウソやうわさを見抜くことができるかもしれませんが、発達段階である子どもたちがインターネットでウソやうわさに出会った場合、そのような情報を鵜呑みしてしまいがちです。



子どもたちには、インターネットにはウソやうわさなどがあることを伝え、ブログや掲示板に書いてある情報を見るときは、常に慎重になり、他の情報と比較しながら読み解いていくことを教えましょう。



解説コンテンツ……「ウソやうわさにまどわされないように」



6 ページ……「ウソやうわさにまどわされないように」

Session

2

## 土星の輪について調べてまとめよう！

## このセッションの学習目標

- インターネットや図書などを使って「土星の輪の正体」について調べ、収集した情報と自分の意見を区別しながら、情報編集ツールを使って資料をまとめる。
- 情報を鵜呑みにせず、自分で判断して適切な情報を選択できるようになる。

## 学習の流れ

学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (4分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用意された複数の学習用ウェブサイトを使って、情報をまとめることを説明する。(4分)</li> </ul>	<p>情報編集ツールを用意する。</p>
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説コンテンツを提示しながら、分かりやすい資料の作り方や引用の仕方について解説する。(10分)</li> <li>・子どもたちに情報の収集・編集・加工を行わせる。(30分)</li> </ul>	<p>指導者が実演すると分かりやすい。</p> <p>収集した情報と自分の意見を区別することを強調する。</p> <p>子どもたちの様子を見ながら、必要に応じて編集の仕方についてアドバイスする。</p> <p>ただ情報を収集するだけでなく、自分の意見や考えを加えることが大切なことを伝える。</p> <p>時間内に終わらない子どもについては、次のセッションで編集するように伝える。</p>
まとめ (1分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は、作った資料を使ってお互いに発表することを伝える。(1分)</li> </ul>	

## 評価の観点

- 1 インターネットから必要な情報を集めることができたか。
- 2 集めた情報と自分の意見を区別して表現することができたか。
- 3 インターネットにある情報をすべて鵜呑みにしないように努力していたか。

# まとめたことを伝えよう！

## このセッションの学習目標

- 「土星の輪の正体」についてまとめた内容を他の人に伝える。
- 聞いてくれた人の意見や感想を参考に、どうすればより分かりやすくまとめられるかについて考える。

## 学習の流れ

学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のセッションに続いて、「土星の輪の正体」に関する資料を作ることを伝える。(3分)</li> </ul>	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに情報の収集・編集・加工を行わせる。(20分)</li> <li>・資料作り（課題に対するまとめた内容）が完了しているかを確認する。(2分)</li> <li>・これから、作った資料（課題に対するまとめた内容）を使ってお互いに発表しあうことを伝える。(3分)</li> <li>・自分で作った資料を使って発表させ、お互いに意見や感想を交換させる。(15分)</li> </ul>	<p>3～4人に発表させる。 提示用機材が複数あれば、グループに分けて発表させても良い。</p> <p>相手の発表の良かった点、自分の資料や発表の改善すべき点についてまとめる。 評価シートなどに記入させると良い。</p>
まとめ (2分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で作った資料を自宅に持ち帰れるようにプリントアウトさせる。(2分)</li> </ul>	<p>プリンターを用意しておく。プリンターの台数が少ない場合は、休み時間等に印刷させる。</p>

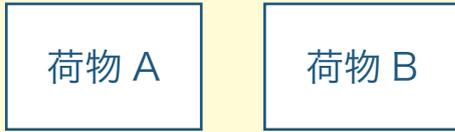
## 評価の観点

- 1 自分の考えや意見を他の人に分かりやすく伝えられたか。
- 2 伝えたい情報や伝えたい相手によって、適切な表現方法があることに気づいたか。

## 分かりやすい資料の作り方

直す前

2つの荷物の重さをはかった結果



荷物 Bの方が荷物 Aより重い

直した後

2つの荷物の重さをはかった結果



荷物 Bの方が荷物 Aより **2kg 重い**

### POINT 1 一番伝えたいことを一番目立たせる

自分が一番伝えたいことは、色をつけたり、文字を大きくしたり、線を引いたりして目立つようにしましょう。

### POINT 2 数字を使う

2つ以上の物事について重さや長さ、金額などを比較して見せたいときは、比較したい内容について数字を見せるように心がけましょう。

直す前

具だくさんスクランブルエッグの作り方

#### ◆材料

じゃがいも 1 個	塩少々
牛乳 1/2 カップ	こしょう少々
薄切りベーコン 4 枚	バター大さじ 2 杯
たまねぎ 1/2 個	卵 4 個

#### ◆作り方

1. 材料を 1cm くらいの大きさに切ります。
2. ボールに牛乳と卵、塩とこしょうを入れて溶きます。
3. フライパンを温め、油をひきます。
4. たまねぎ、ベーコン、じゃがいもの順番に炒めます。
5. 溶いた卵を入れて、かき混ぜます。
6. ほどよく固まったら、お皿にうつします。
7. 完成

直した後

具だくさんスクランブルエッグの作り方

#### —材料—

- ・じゃがいも 1 個
- ・牛乳 1/2 カップ
- ・薄切りベーコン 4 枚
- ・たまねぎ 1/2 個
- ・卵 4 個
- ・塩少々
- ・こしょう少々
- ・バター大さじ 2 杯

1. 材料を 1cm くらいの大きさに切ります。

2. ボールに牛乳と卵、塩とこしょうを入れて溶きます。

3. フライパンを温め、油をひきます。

4. たまねぎ、ベーコン、じゃがいもの順番に炒めます。

5. 溶いた卵を入れて、かき混ぜます。

6. ほどよく固まったら、お皿にうつします。

完成

### POINT 3 図を描く

作業の流れや情報のつながりを表すときは、四角や丸、線、矢印などを使って簡単な図を描くようにしましょう。

### POINT 4 内容ごとにグループに分ける

文章や図は、伝えたい内容ごとにグループを作って、グループ毎に見せ方を変えるようにしましょう。



## 引用ってなんだろう？

他の人が作った文章や図などの一部を報道や批評、研究のために自分で作ったものにそのまま載せることを「引用」といいます。例えば、読書感想文を書くために、ある文に対して感想を書きたいとき、読書感想文の中にその文を書かないと感想をうまく伝えられないことがあります。そのような場合、感想を伝える上で必要最低限の文を読書感想文の中に書くことは引用にあたります。

引用するときは、引用部分をかっこで囲ったりして、自分が書いた文章と区別しなければなりません。また、引用した資料の名前や作者についても自分の作ったものを書く必要があります。引用部分について、作者の許可をとらずに言葉を変えたり、書き足して使うことは「著作権の侵害」にあたるので、注意が必要です。

子どもたちには、ウェブサイトや図書、新聞などの内容を、まるごと自分の資料に載せてはいけないことを教えましょう。もし、他の人が書いた文章や図などの一部をそのまま使いたいときは、その情報の引用元である資料や作者の名前などを書き、引用した内容をかっこで囲うなどして、自分で作った部分と引用した部分を区別するように教えましょう。



解説コンテンツ……「引用ってなんだろう？」



7 ページ……「引用ってなんだろう？」

## 上手に発表するコツ

どんなに作った資料がすばらしくても、発表が分かりづらければ、自分の意見や考えを相手にうまく伝わらないことがあります。

発表の際、緊張することは決して悪いことではありません。子どもたちには、緊張することは悪いことではないことを伝えると同時に、上手に発表するコツとして、次のことを実践しながら教えましょう。



1. 背筋を伸ばして、顎を軽く引き、聞いている人たちに目を向ける。
2. 大きな声で、はっきりと、ゆっくり話す。
3. 今話しているところの資料を指示棒や手で指す。
4. 聞いている人の様子を見て、分かってもらっているかを考えながら話す。
5. 話すときは笑顔を心がける。



解説コンテンツ……「上手に発表するコツ」



9 ページ……「上手に発表するコツ」



# わくわく！ハラハラ？インターネット

## セミナーのねらい

- ・インターネットの特性や生活をより豊かにする便利なウェブサービスについて理解するとともに、危険な側面も知ることで、インターネットを自分の生活の中で上手に活用するための力を養う。

## セミナーを行うにあたって

所要時間 45分×1セッション（合計45分）

学習形態 体験学習

定員 1クラス30～40人

使用する教材・機材

コンピューター（インターネットに接続できること）	2～3人に1台以上
プロジェクターなどの大型提示装置	1台
ティーチャーズガイド	1冊
学習テキスト	参加人数分
インターネット補助教材	1式

## 学習の背景

インターネットは、さまざまな人たちの努力のおかげで、私たちの生活を支えるとても重要なメディアになりました。インターネットは、テレビや新聞などのマスメディアと異なり、私たち1人1人が情報を自由に受発信したり、メールやチャットなどのコミュニケーションツールを使って、遠くの人とコミュニケーションできる唯一の双方向メディアです。ここ数年、ネットワークの高速化やコンピューターの高性能化が進んだことで、インターネットには経路探索や通信販売、役所への各種届出など、私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービス（インターネット上で提供されるサービス）がたくさん登場しました。携帯電話のさらなる普及や情報教育の浸透により、近い将来、大人から子どもまで、インターネットを自由自在に使う時代が来るかもしれません。

便利なウェブサービスが登場する一方で、インターネットには偽のウェブサービスを使って情報を盗んだり、コンピューターや携帯電話を壊そうとしたり、お金を取るようとする悪い人がいます。インターネットを活用するためには、トラブルに巻き込まれないための知識や対処方法を身につけることが大切です。また、インターネットを活用したり、悪意のある行為から身を守るためには、インターネットの特性を知ることも重要です。

このセミナーで、子どもたちはインターネットの特性や便利なウェブサービスについて知り、インターネットにはさまざまな危険があり、気をつけて使わなければいけないことを迷惑メールシミュレーターで体験しながら学びます。

## セミナーの概要

### Session 1

### インターネットについて考えよう！

インターネットの特性や便利なウェブサービスについて学びます。後半では、迷惑メールシミュレーターでプレゼント懸賞への応募や迷惑メールを体験し、個人情報を書き込むことの危なさや望まない情報への対処方法について学びます。



## シミュレーターについて

このセミナーで、子どもたちは『プレゼント懸賞に応募するために個人情報を登録したら、自分のところに大量の迷惑メールが届くトラブル』を迷惑メールシミュレーターで疑似体験します。プレゼント懸賞サイトなどでうかつに個人情報を書き込むと、その個人情報が他の人に漏れたり、別のことに使われる恐れがあることを知るとともに、迷惑メールなどの望まない情報や甘い言葉が書いてある情報に対してどのように対処すればよいかについて体験しながら学びます。子どもたちは、シミュレーター上で自分の名前やメールアドレスをキーボードから入力することになるため、実際のインターネット利用に近い感覚で学習することができます。

### 子どもたちに送られてくる迷惑メールについて

プレゼント懸賞に応募すると、シミュレーター内のメールソフトに大量の迷惑メールが送られてきます。シミュレーター内のメールソフトに送られてきた迷惑メールを開くと、そのメールをどうするかについて聞いてきます。子どもたちは、選択内容に応じたトラブルや注意事項を見ることで、望まない情報や甘い言葉などが書いてある怪しい情報に対してどのように対処すればよいかについて学ぶことができます。

### 迷惑メールの例

- ◆意味不明な文字が長々とかかれたもの  
メールを開いても削除しても何も起きません。
- ◆出会い系の広告メール  
URL をクリックすると自動的に会員登録されて、出会い系サイトから登録料金が請求されます。
- ◆友だちからのメールを装ったウィルスメール  
添付ファイルを開くと、シミュレーター内のパソコンにコンピューターウィルスが感染します。
- ◆スピードくじを装ったいたずらメール  
URL をクリックしてメールアドレスを入力すると、さらに大量の迷惑メールが送られてきます。

# Session 1

## インターネットについて考えよう！

### このセッションの学習目標

- インターネットの利点と気をつけなければいけないことを理解させる。
- インターネットには私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービスがあることを理解させる。
- インターネットには、私たちにいやな思いをさせたり、危ない目に遭わそうとしたりする人がいることを知り、個人情報をおかずに教えたり、甘い誘いに乗ったりしてはいけないことを理解させる。

### 学習の流れ

学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちに、インターネットに対するイメージや、インターネットでできることについて発表させる。(7分)</li> <li>・ これからインターネットの特性や利用にあたっての注意点について学ぶことを子どもたちに伝える。(3分)</li> </ul>	
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットの特性について、解説コンテンツを提示しながら解説する。(5分)</li> <li>・ 私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービスについて、解説コンテンツを提示しながら紹介する。(5分)</li> <li>・ 迷惑メールシミュレーターでプレゼント懸賞とその後起こるさまざまなトラブルを子どもたちに体験させる。(10分)</li> <li>・ 迷惑メールシミュレーターでどんなことが起こったか、子どもたちに発言させる。(5分)</li> <li>・ インターネットには便利なものだけでなく、迷惑メールのように人をだましたり、いやな思いをさせたりするものがあることを伝え、適切な対処方法について解説する。(5分)</li> </ul>	<p>子どもたちが発表した「インターネットに対するイメージ」と絡めて解説するとよい。</p> <p>時間がなければ、1～2つに絞って解説してもよい。</p> <p>実際のウェブサービスを使いながら説明しても良い。</p> <p>3～4人に発言させる。</p> <p>コンピューターを壊す仕掛けのあるウェブサイトや自分の個人情報をばらまかれてしまうウェブサイトなどがあることにも触れるとよい。</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちに、この学習の感想をワークシートに書かせる。(5分)</li> </ul>	<p>*ワークシート (学習テキスト 15 ページ) 解答 (ティーチャーズガイド 54 ページ)</p>

## 評価の観点

- 1 インターネットの利点と気をつけなければいけないことを理解できたか。
- 2 インターネットには私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービスがあることを理解したか。
- 3 インターネットには、私たちにいやな思いをさせたり、危ない目に遭わそうとしたりする人がいることを知り、個人情報をつかずに教えたり、甘い誘いに乗ったりしてはいけないことを理解したか。
- 4 望ましくない情報に出会ったときの適切な対処方法を理解した上で、迷惑メールシミュレーター内で適切な対応ができたか。

## インターネットの良いところ

インターネットは、これからの私たちの生活にかかせない重要なメディアです。ネットワークの高速化やコンピューター・携帯電話の高性能化により、インターネットは私たちの生活により深く関わってくることは間違いありません。子どもたちがインターネットをうまく活用できるように、インターネットの特性についてしっかり教えましょう。

### (1) すごく速い！

インターネットでは、ブログやメール、掲示板などを介して、情報が一瞬で伝わっていきます。手紙なら数日かかる情報も、インターネットを使えば一瞬で伝えられます。

### (2) とにかく広い！

インターネットでは、1つのウェブサイトを多くの人が見ることができると、情報を広範囲に伝えることができます。テレビや新聞は特定の地域への情報発信に限定されがちですが、インターネットなら世界規模で情報を発信できます。

### (3) 誰でも自由に受発信できる！

インターネットでは、テレビや新聞などのメディアと違い、誰でも好きなタイミングで情報を受発信することができます。



## わくわくする便利なウェブサービス

インターネットには、私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービスがたくさんあります。このようなウェブサービスの多くは、調べる、買う、予約するなど、私たちの行動をサポートしてくれるものばかりです。携帯電話が進化したことで、これらのウェブサービスはいつでもどこでも利用できるようになりました。これらのウェブサービスを小学生や中学生が使うことは少ないかもしれませんが、これからの時代を賢く生きる力を身につけさせるためにも、子どもたちの実態に応じて適切なウェブサービスを紹介しましょう。

### ●調べる！

目的地までの行き方を調べたいときは、経路探索サービスを使えば、乗り継ぎ方法や料金などを簡単に調べることができます。会員登録することで、コンピューターで調べた経路を携帯電話で確認できるウェブサービスもあります。



### ●買う！

家の近くにお店がない場合、インターネット通信販売サービス（略して、ネット通販）を使えば、わざわざお店まで行かなくても、自宅にいながらショッピングを楽しむことができます。買いたい物によっては、ネット通販の方が安く買えることがあります。



### ●予約する！

電車やバス、航空機などで席予約が必要なときは、駅や空港に行かなくてもウェブサイトで席を予約することができます。また、一部の図書館や清掃工場では、図書の予約や粗大ゴミの回収予約をインターネットで申し込むことができます。



※ゲームなどのコンテンツ配信やプロフィールサイトなどを紹介すると、それらの存在を知らない子どもで興味を持ってしまう恐れがありますので、指導者から積極的に紹介しなくてもよいでしょう。（子どもたちの実態に応じて必要であれば教えましょう）



## インターネットには、ハラハラもいっぱい！

インターネットは、とても便利な反面、使い方を間違えるとコンピューターや携帯電話が壊れたり、嫌な思いや怖い思いをすることがあります。このような悲しいことが起こる原因の多くはインターネットの特性にあるといえます。子どもたちにインターネットの特性を教えるときは、良い面だけでなく、インターネットの「影」といわれる危険な面についても取り上げるようにしましょう。

### ●クリック1つで決まっちゃう！

インターネットは、クリック1つでさまざまなことができる反面、クリック1つで嫌な思いや怖い思いをすることがあります。子どもたちには、ボタンやリンクをクリックする前に、それを本当にクリックすべきかどうか考えるようにすることを教えましょう。

### ●やり直しができない！

インターネットに一度情報を発信すると、あっという間にいろいろな人に広がってしまいます。一度インターネットに流れてしまった情報は撤回・消去できません。間違えた情報を発信して、他の人の迷惑になったら大変です。子どもたちには、情報を発信する前に、その内容に間違いがないかしっかり確認することを教えましょう。(ブログや掲示板を子どもだけで利用させてはいけないという考え方もあります)

### ●誰だか分からない！

インターネットでは、自分の名前や連絡先などを公開しなくても、情報を発信できるため、自分の身元を明かさずに、人をだましたり、嫌がらせしたりする人がいます。もし、何かあったときに、犯人を調べるのはとても大変です。子どもたちには、ブログやチャット、掲示板などで知り合った人とコミュニケーションするときは、直接会って話すときよりも慎重になることを教えましょう。



### ●どうしよう？

コンピューターや携帯電話でメールを使っていると、ウィルスメールや架空請求メール、さらにはプレゼントやアンケートを装った個人情報を搾取するメールなどが送られてくることがあります。これらのメールは無視しても構わないものですが、インターネットの仕組みを知らない人は、どう対応すればよいか不安になるかもしれません。子どもたちには、このようなメールが送られてきたら、無視して捨てるか、家族やインターネットに詳しい人に相談することを教えましょう。



## インターネットを安全に使うための心構え

インターネットを使うときも、家の外を歩くときと同じように、自分の身は自分で守らなければなりません。インターネットには、便利なウェブサービスがたくさんありますが、それと同時に危険なものがたくさんあることも事実です。子どもたちには、インターネットを安全に活用できるようになるために、次のことをしっかり教えましょう。

### ●甘い言葉には気をつける！

危険なウェブサイトへのリンクが書かれたメールやウェブサイトには、「プレゼント」や「無料」など、見た人がリンクをクリックしたくなるような甘い言葉がたくさん書かれています。子どもたちには、このようなキーワードにつられて、むやみにリンクをクリックしないようにすることを教えましょう。



### ●名前や住所はむやみに書き込まない！

多くのウェブサイトは、本人確認のために個人情報の登録を求めています。プレゼント懸賞サイトやゲームなどのコンテンツ配信サイトの一部には、登録された個人情報を別の業者に売ったり、本来の目的以外のことに使うような悪質なところもあります。また、一部の子どもたちは、プロフィールサイト（プロフィールサイト）という自分の趣味や性格などの情報を他の人に公開するウェブサービスを使っているようです。このようなウェブサイトに個人情報を書くことはとても危険です。子どもたちには、個人情報をウェブサイトに登録したり、ブログや掲示板などに書き込まないように教えましょう。



### ●怪しいウェブサイトにはアクセスしない！

小学校高学年になると、ポルノサイトやオカルトサイト、裏情報サイトなどにアクセスしたがる子どもが出てきます。これらのウェブサイトは教育上好ましくない上、コンピューターウイルスや不正なプログラムをコンピューターに潜り込ませたり、コンピューターを壊そうとしたりするものが多く、大変危険です。子どもたちには、このようなウェブサイトにはアクセスしてはいけないことを教えましょう。偶然アクセスしてしまったときに備えて、急いでそのウェブサイトから立ち去る方法（ブラウザを閉じる、コンピューターの電源を切るなど）についても教えましょう。







# 学校のステキを伝えよう！

## セミナーのねらい

- ・ ブログの作成や自分が伝えたいことを分かりやすい文章や写真などで表現することを通じて、インターネットで情報発信するための力を養う。
- ・ ブログを読んだり、コメントを書いたりすることを通じて、インターネットの先にいる相手と思いやりをもってコミュニケーションする力を養う。

## セミナーを行うにあたって

所要時間 45分×3セッション（合計135分） 学習形態 体験学習

定員 1クラス30～40人

### 使用する教材・機材

コンピューター（インターネットに接続できること）	2～3人に1台以上
プロジェクターなどの大型提示装置	1台
ティーチャーズガイド	1冊
学習テキスト	参加人数分
インターネット補助教材	1式
デジタルカメラ	2～3人に1台以上
リムーバブルメディアのカードリーダー	2～3人に1台以上

## 学習の背景

皆さんは、ブログというものをご存知でしょうか？

ブログは、ウェブログ (Weblog) の略でウェブサイトに関する専門的な知識やスキルがなくても、コンピューターや携帯電話のブラウザから日記を書く感覚でウェブサイトを作ることができるコミュニケーションツールです。プロバイダーや検索サイトがブログサービスを無料で始めたことをきっかけに、大人から子どもまで幅広い年齢層の人がブログを持つようになりました。

今後、子どもたちがブログやメールなどを使ってインターネットに情報を発信することは日常的なコミュニケーション手段の一つになることは間違いありません。自分の意見や考え、物事の情報を発信するためには、伝えたい内容をどのように表現し、どのような手段を使って伝えるかについて考えることが重要です。さらに、インターネットで安全に情報を発信するためには、肖像権や個人情報といったプライバシーや人の権利に関するルールやマナーを守ることが求められます。

このセミナーで、子どもたちは「学校のステキを伝えよう！」という課題の中でブログを使った情報発信やコミュニケーションを体験することを通じて、インターネットに情報を発信できるようになるための知識やスキル、ルールやマナーについて学びます。

## セミナーの概要

### Session 1

#### デジタルカメラで写真を撮ろう！

デジタルカメラの基本的な仕組みや使い方、いろいろな写真の撮り方などを学び、ブログに載せる写真を撮ります。カメラポジションやカメラアングルなどの撮影方法やカメラが動かないように構えること、光の向きを考慮することなど、撮影上の注意を学びます。



### Session 2

#### ブログを使って伝えよう！

ブログの仕組みや操作方法について学び、写真と文章を使ってブログを作ります。ブログ作りに入る前に、分かりやすい文章の書き方を学ぶことで、他の人に伝わるような文章を書くことを意識します。ブログを作る過程で、肖像権や個人情報の扱いに配慮することの必要性について学びます。



### Session 3

#### ブログでコミュニケーションしよう！

友だちのブログを読んだり、自分の意見や感想などのコメントを書くことで、ブログでのコミュニケーションを体験します。他の人とブログでコミュニケーションすることにより、コミュニケーションの楽しさやインターネットでも思いやりのある行動をとることが大切であることを学びます。



## セミナー実施にあたってのアドバイス

このセミナーは3セッションで構成されていますが、3セッション分の時間が確保できない場合は、セッション1「デジタルカメラで写真を撮ろう！」を省略しても構いません。その場合、ブログで使う写真は別の授業などで撮影した写真や市販の素材集を利用しましょう。

また、このセミナーは課題として「学校のステキ」を取り上げていますが、子どもたちの実態やセミナーの実施方法に応じて、「私の宝物」や「町の景色」のような別の課題を取り上げることもできます。

Session  
①

# デジタルカメラで写真を撮ろう！

## このセッションの学習目標

- デジタルカメラの基本的な仕組みと使い方を理解して、写真を撮れるようにする。
- 自分が伝えたいことを伝えられるような写真を撮れるようにする。

## 学習の流れ

学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちに、これからブログを使って写真と文章で学校のステキなところを他の人に伝えることを説明する。(7分)</li> </ul>	<p>子どもたちの実態に応じて、ブログについて知っていることを発言させてもよい。</p> <p>実際のブログを表示しながら説明するとよい。</p>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタルカメラを配布し、子どもたちにデジタルカメラを操作させながら、基本的な使用方法（撮影方法・撮影した写真の確認方法など）について解説する。(5分)</li> <li>・ 解説コンテンツを提示しながら、いろいろな写真の撮り方や上手に撮影するためのコツについて解説する。(5分)</li> <li>・ 子どもたちにデジタルカメラを使って写真を撮影させる。(20分)</li> <li>・ 子どもたちに撮影した写真データをコンピューターに取り込ませる。(5分)</li> </ul>	<p>指導者は、操作トラブルに対応できるように事前にデジタルカメラの使い方を把握しておく。</p> <p>時間がないときは、上手に撮影するためのコツを省いてもよい。</p>
まとめ (3分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブログで公開するための写真ということ意識しながら撮影できたかを確認する。(2分)</li> <li>・ 次回は、撮影した写真を使って実際にブログを作ることを予告する。(1分)</li> </ul>	<p>子どもたちへの確認は、口頭で答えさせても、簡単なチェックシートに書き込ませてよい。</p>

## 評価の観点

- 1 デジタルカメラで自分が撮りたい写真を撮影し、コンピューターに取り込むことができたか。
- 2 ブログで公開するための写真であることを意識しながら撮影できたか。
- 3 いろいろな写真の撮り方や写真を上手に撮るコツを参考に、自分の目的にあった写真を撮ろうと努力したか。

## いろいろな写真の撮り方

### ●フルショットとアップショット

写真は被写体の撮る部分を変えることで、伝えたいことを変えることができます。被写体全体を写真に撮ることを「フルショット」といい、被写体全体の雰囲気を伝えるときに使います。逆に、被写体の一部だけを撮ることを「アップショット」といい、被写体の一部について詳しく伝えたいときに使います。ここでは、船の模型を例に被写体のどの部分を撮るかによって、その写真が伝えるものが変わることについて解説します。被写体・・・写真に写っている人や物、景色のこと。



フルショットで撮った写真。船全体の雰囲気が分かります。

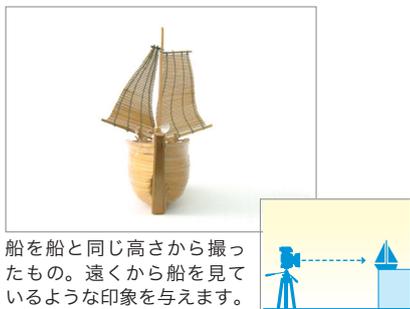


アップショットで撮った写真。船の上での人の様子が分かります。

### ●カメラアングルとカメラポジション

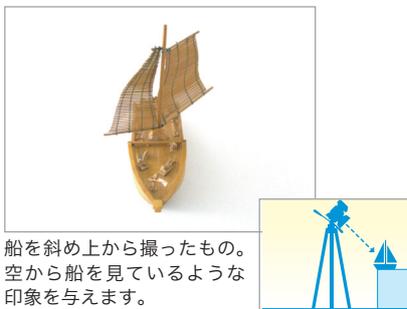
ここでは、撮り方を変えた3つの写真を例に、カメラアングル（被写体の方に向いているカメラの角度）やカメラポジション（被写体とカメラの位置関係）を変えることで、同じ被写体でも異なる印象を与える写真を撮ることができることについて解説します。

#### 正対（正面）



船を船と同じ高さから撮ったもの。遠くから船を見ているような印象を与えます。

#### ハイアングル・ハイポジション



船を斜め上から撮ったもの。空から船を見ているような印象を与えます。

#### ローアングル・ローポジション



船を斜め下から撮ったもの。船着場から船を見ているような印象を与えます。



解説コンテンツ……「いろいろな写真の撮り方」



18 ページ……「いろいろな写真の撮り方」

## 上手に撮影するコツ

### POINT 1 カメラをしっかり固定しよう！

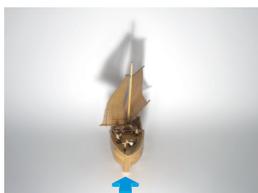
写真を上手に撮るためには、カメラをしっかり固定することが重要です。ここでは、カメラの正しい持ち方について解説します。

1. 両手でしっかりと持つ
2. 脇をしめる
3. 身体が動かないような体勢を保つ

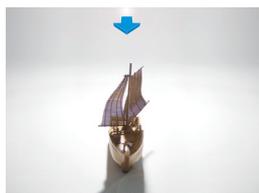


### POINT 2 光の向きを考えよう！

写真を撮る際、被写体に当たる光の向きを考えることはとても重要です。どんなに被写体や構図が素晴らしくても、光の向きを間違えただけで、その写真が台無しになってしまうこともあります。ここでは、順光・逆光・斜光を例に、光の向きによって写真の雰囲気が変わってしまうことについて解説します。



順光で撮った船。船の正面をはっきり確認することができます。



逆光で撮った船。船の正面が暗いため、不気味な雰囲気が伝わってきます。



斜光で撮った船。片側にしか光が当たっていないため、反対側は暗くなっています。



解説コンテンツ……「上手に撮影するコツ」



19 ページ……「上手に撮影するコツ」

Session  
**2**

# ブログを使って伝えよう！

## このセッションの学習目標

- 自分の伝えたいことについて、分かりやすい文章を書き、写真と共にブログへ登録できるようにする。
- 肖像権や個人情報に配慮することの大切さに気づき、ブログを作るときに実践できるようにする。

## 学習の流れ

学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の学校のステキなところについて、写真を用意できたか確認する。(2分)</li> <li>・ブログの仕組みについて解説コンテンツを提示しながら解説する。(5分)</li> </ul>	<p>実際のブログを提示できるとよい。指導者が事前に作ったものを見せてもよい。</p>
展開 (32分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログの作成から公開までの流れを説明する。(7分) ※シミュレーターが確認メッセージを表示するたびに、肖像権や個人情報に対する配慮の必要性について説明する。</li> <li>・分かりやすい文章の書き方について解説コンテンツを提示しながら解説する。(4分)</li> <li>・子どもたちに自分の学校のステキなところに関する文章を書かせて、写真と文章をブログに書き込ませる。(20分)</li> <li>・子どもたちが自分で書いた文章と写真をブログに書き込んだか確認する。(1分)</li> </ul>	<p>指導者がシミュレーター上で実演すると分かりやすい。</p> <p>子どもたちの様子を見ながら、必要に応じて文章の書き方やシミュレーターの操作方法についてアドバイスをする。</p> <p>作業が終わっていない子どもに対しては、指導者や補助員が手伝う。</p>
まとめ (6分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このセッションの学習内容に関する確認問題を解かせ、ワークシートに書かせる。(5分)</li> <li>・次回は、他の人のブログを読むところから始めることを伝える。(1分)</li> </ul>	<p>子どもたちへの確認は、口頭で答えさせても、簡単なチェックシートに書き込ませてよい。</p> <p>*ワークシート (学習テキスト 26 ページ) 解答 (ティーチャーズガイド 55 ページ)</p>

## 評価の観点

- 1 自分が伝えたいことを分かりやすい文章で表現しようと努力しているか。
- 2 自分で撮影した写真と書いた文章をブログに登録することができたか。
- 3 個人情報をブログに書き込むことは危険であることを理解し、ブログに書き込んでいないか。
- 4 肖像権を理解し、写っている人の許可をとって写真を載せているか。

## ブログの作り方

① “お気に入りページ” ボタンをクリックし、リストが表示されたら “自分のブログ” をクリックします。

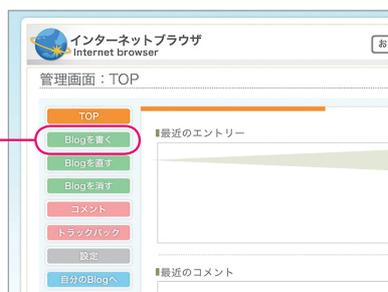


ここをクリック



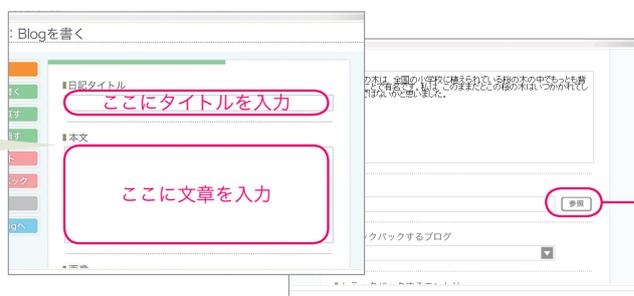
②画面の左側にある“管理画面へ” ボタンをクリックします。

ここをクリック



③画面の左側にある“Blogを書く” ボタンをクリックします。

④タイトル、本文を入力します。画像を公開する場合は、“参照” ボタンをクリックして、公開したいファイルを選択します。



⑤入力した内容に間違いがないか確認したら、“保存” ボタンをクリックします。



これをクリック



ブログが完成

## ブログってなに？

ブログを利用すればウェブサイトに関する専門的な知識やスキルがなくても、日記を書く感覚でウェブサイトを作ることができます。

ブログでは、自分で記事を書いたり、他の人のブログに書かれている記事を読んだり、記事に対してコメントを書き込んだり、記事に関連する他のブログへリンク（トラックバック）を貼ったりすることで、他のブログ利用者とコミュニケーションすることができます。自分の意見や考えを記事として書き込み、その内容に対して他の人からコメントをもらうことで、自分の意見や考えを見直すことができます。

ここではブログの仕組みやブログでできること、ブログがどのようなことに使われているかについて簡単に教えます。



解説コンテンツ……「ブログってなに？」



20 ページ……「ブログってなに？」

## 分かりやすい文章の書き方

ブログやメールなどのコミュニケーションツールは、インターネットの先にいる相手と文字でやりとりすることが多く、スムーズにコミュニケーションするためには分かりやすい文章を書くことが求められます。ここでは、すぐに実践できる分かりやすい文章の書き方について解説します。

### 1. 言葉の並び順を考えよう！

言葉の並び順によって意味が変わったり、伝えたいことがうまく伝わらなかったりすることを伝え、分かりやすい語順を見つける方法について教えます。

### 2. 1つの文を短くしよう！

長い文は読みづらいだけでなく、たくさんの言葉が並ぶことで主語と述語が分かりづらくなることを伝え、1文を短くすると分かりやすくなることを教えます。

### 3. 事実と自分の意見や感想は分けて書こう！

事実と自分の意見や感想を一緒に書くと、その文が伝えたいことが分かりにくくなることを伝え、別々に書く習慣を身につけることを教えます。



解説コンテンツ……「分かりやすい文章の書き方」



22 ページ……「分かりやすい文章の書き方」

## その写真、勝手に公開していいのかな？

ウェブサイトには、文章だけでなく、イラストや写真、映像といったさまざまな情報が公開されています。特に、デジタルカメラやカメラ付携帯電話が普及したことで、自分で撮影した写真をブログで公開する人が増えました。人の顔や姿が写っている写真をブログなどで公開する場合、写真に写っている人から公開する許可をとる必要があります。写真を公開する人の中には、「許可をとるのが面倒」といった理由や、「商売で使うわけじゃないから許可をとらなくても良いのでは？」といった誤解のもとで、他の人が写っている写真を無断で利用している人もいます。



このセミナーで使用するブログシミュレーターでは、ブログで写真を公開しようとする時、その写真に写っている人にブログで公開する許可をとったかどうかについて確認するメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、人には自分の似顔絵や写真を勝手に使われない権利（肖像権）があり、写真や似顔絵をインターネットに公開するためには、事前に写っている人の許可をとらなければいけないことを子どもたちに教えましょう。



解説コンテンツ……「その写真、勝手に公開していいのかな？」



23 ページ……「その写真、勝手に公開していいのかな？」

## 名前や住所などを書く前に考えよう！

企業の情報漏洩事件や犯罪被害者などに対する報道被害を背景に、個人情報やプライバシーに対する関心が高まっています。世間には、入手した個人情報を名簿として企業に販売したり、嫌がらせに使ったりする人がいます。このような人たちの多くは、インターネットのウェブサイトや掲示板などから個人情報を収集しています。インターネットを安全に利用するためには、このような人たちに個人情報を知られないように、個人情報を大切に管理できるようになる必要があります。



このセミナーで使用するブログシミュレーターでは、ブログに記事を書き込もうとすると、名前や住所、メールアドレスなどの個人情報を書き込もうとしていないかについて確認するメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、インターネットにはブログや掲示板などに書かれている名前や住所、メールアドレスなどの個人情報を使って嫌がらせをしたり、本人になりすまして悪いことをしたりする人がいることを伝え、ブログや掲示板のように大勢の人が見るところに自分や他の人の個人情報を書くことは危険であることを子どもたちに教えましょう。



解説コンテンツ……「名前や住所などを書く前に考えよう！」



23 ページ……「名前や住所などを書く前に考えよう！」

Session  
3

# ブログでコミュニケーションしよう！

## このセッションの学習目標

- コメントを読んだり書いたりすることで、インターネットの先にいる相手とコミュニケーションする。
- インターネットの先にいる相手に対して思いやりをもってコメントを書く。

## 学習の流れ

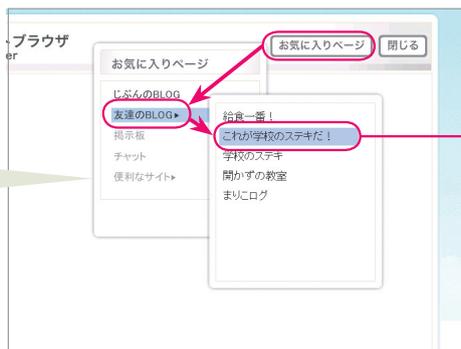
学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の学校のステキなところについて、ブログに書き込めたか確認する。(2分)</li> <li>・ これから、他の人が作ったブログを見て、感想や意見をコメントとして書くことを伝える。(3分)</li> </ul>	
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コメントの書き方を実演する。(5分) ※コメントを書く際に確認メッセージが表示されたら、その内容を読み上げて、相手への思いやりの大切さについて説明する。</li> <li>・ 子どもたちに、他の人のブログを見て、意見や感想をコメントとして書かせる。(20分)</li> <li>・ ブログに書いたコメントを子どもたちに読ませる。(5分)</li> </ul>	<p>人数が多いときは、いくつかのグループに分けて、グループ内の子どものブログだけにコメントを書かせてもよい。</p> <p>情報を発信することにより、コミュニケーションが広がることを実感させる。</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちにこのセッションのワークシートを解かせる。(5分)</li> <li>・ 子どもたちにこのセッションの感想について発表させる。(5分)</li> </ul>	<p>*ワークシート (学習テキスト 27 ページ) 解答 (ティーチーズガイド 56 ページ) 3～4人に発表させる。</p>

## 評価の観点

- 1 インターネットの先にいる相手と積極的にブログでコミュニケーションしようとしたか。
- 2 ブログでやりとりする相手に対して、思いやりをもってコメントを書こうとしたか。

## コメントの書き方

① “お気に入りページ” ボタンをクリックし、リストが表示されたら見たいブログをクリックします。



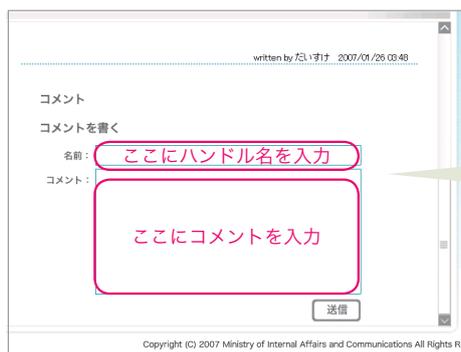
矢印の流れに合わせてクリック

② コメントを書きたい記事の下にある“続きを読む”ボタンをクリックします。

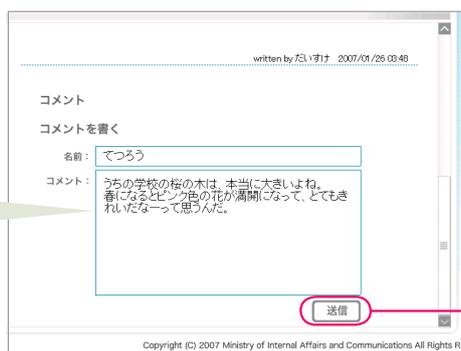


ここをクリック

③ スクロールバーで画面をスクロールさせて、コメントを書く欄を表示し、あなたのハンドル名、コメントを入力します。



④ 入力した内容に間違いがないか確認したら、“保存”ボタンをクリックします。



ここをクリック

新しく書き込まれたコメント



コメントの書き込み完了

## ブログを見て、コメントを書いてみよう！

私たちは、ブログを読んだり、コメントを書いたりすることで、ブログ利用者とコミュニケーションすることができます。ここでは、子どもたちが互いにブログを読みあい、コメントを書くことで、ブログによるコミュニケーションを体験します。指導者の方は、ブログの内容や子どもたちの様子をチェックし、必要に応じて子どもたちにコメントの書き方についてアドバイスしたり、子どもたちを励ますコメントを書いたりして、コミュニケーションを活性化させる手助けをしましょう。子どもたちに余裕がありそうなおときには、自分のブログに關係する内容のブログにリンクを貼ること（トラックバック）も体験させましょう。



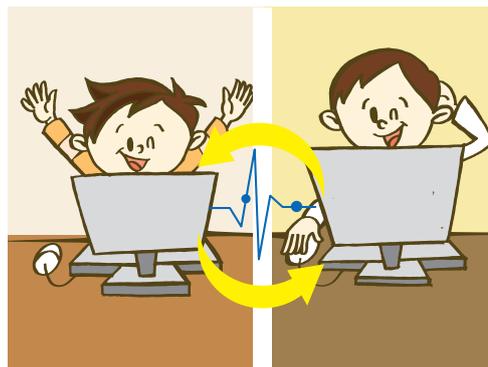
解説コンテンツ…… 「ブログを見て、コメントを書いてみよう！」



24 ページ…… 「ブログを見て、コメントを書いてみよう！」

## コメントを書くときは思いやりを忘れずに

メールやブログの登場により、自分の気持ちや意見を直接顔を合わすことなく、文字だけで伝える機会がとても増えています。メールやブログは、基本的に自分が伝えたいことを文字だけで表現する必要があるため、声や身振りが使えるときよりも、自分の伝えたいことが相手にうまく伝わらないことがあります。また、直接顔を合わすことなく会話ができるため、普段言いつづかったことを伝えられる反面、言動が攻撃的になったり、感情的になったりすることがあります。



このセミナーで使用するブログシミュレーターでは、ブログにコメントを書こうとすると、ブログを読む人を不快にしたり、傷つけたりするようなことを書いていないかについて確認するメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、インターネットには直接会って話すときよりも言葉づかいが悪くなったり、強気になったり、相手が傷つくことを平気で書く人がいることを伝え、ブログを作ったり、コメントを書き込んだりするときも、ブログを読む人たちへの思いやりを忘れてはならないことを子どもたちに教えましょう。



解説コンテンツ…… 「コメントを書くときは思いやりを忘れずに」



24 ページ…… 「コメントを書くときは思いやりを忘れずに」





# メールでけんか！どうする？

## セミナーのねらい

- ・「けんか・仲直りシミュレーター」でメールによるけんかのやりとりを疑似体験することを通じて、メールでは言葉づかいが悪くなったり、感情的になったりする人がいることを理解し、相手のことを考えながら言葉を選んでメールでコミュニケーションする力を養う。

## セミナーを行うにあたって

所要時間 45分×1セッション（合計45分）

学習形態 体験学習

定員 1クラス30～40人

使用する教材・機材

コンピューター（インターネットに接続できること）	4人に1台以上
プロジェクターなどの大型提示装置	1台
ティーチャーズガイド	1冊
学習テキスト	参加人数分
インターネット補助教材	1式

## 学習の背景

インターネットに接続可能な携帯電話が登場して以降、メールは仕事でもプライベートでも通話と肩を並べるくらい重要なコミュニケーション手段の1つとなりました。メールは相手が都合の良い時に読んでもらえて、都合の良い時に返信してもらえる上、「いつ・誰に・どんな内容を送ったか」という情報を残すこともできます。

私たちにたくさんの便利さを提供してくれるメールですが、文字だけで表現されたコミュニケーションであるため、トラブルが発生しやすいという欠点もあわせ持っています。メールでは、話すときよりも言葉づかいが悪くなったり、強気になったり、感情的になったりすることもあります。特に子どもの場合は、メールでのけんかが原因で友だちを失ったり、いじめのきっかけになったりすることも十分考えられます。

このセミナーでは、メールの仕組みや使い方、特性を学び、けんか・仲直りシミュレーターでの疑似体験を通じて、メールを気持ちよく使うために必要な知識や心構えを身につけます。

※「けんか・仲直りシミュレーター」は、「けんかシミュレーター」と「仲直りシミュレーター」、「解説シミュレーター」から構成されています。

## セミナーの概要

### Session 1

### メールでコミュニケーションしよう！

メールの仕組みや使い方を学び、メールシミュレーターでメールを体験します。その後、けんかシミュレーターでメールによる行き違いとけんかを体験し、解説シミュレーターに沿って、自分が伝えたいことを文字だけで表現することの難しさや、インターネットでは直接会って話すときよりも言葉づかいが悪くなったり、強気になったり、相手が傷つくことを平気で書いたりしてしまい、トラブルになることもあることを学びます。最後は、仲直りシミュレーターでけんかにならないような言葉を選ぶトレーニングを行います。



## シミュレーターのシナリオについて

このセミナーでは、たけし君と、約束の時間に来なかったのぼる君とのやりとりをけんか・仲直りシミュレーターで疑似体験します。子どもたちは、たけし君の立場になり、のぼる君から届いたメールに対して、あらかじめ用意されたメール本文から返信する内容を選択することで、のぼる君とメールでやりとりすることになります。

### シミュレーターのプロローグ

のぼる君「月の観察の宿題おわった？」

たけし君「まだやってないよー。始業式の日提出だよね？」

のぼる君「そうだよ。明日、天気いいみたいだから、明日公園でお父さんと観察しようと思ってるんだけど、一緒に行かない？」

たけし君「いいよー！何時から？」

のぼる君「6時から1時間くらいやろうと思ってるよ。」

たけし君「そしたら、6時に公園で待ち合わせでいいかな？」

のぼる君「いいよー！それじゃ、また明日ね」

待ち合わせ当日の朝6時。たけし君は時間通りに近所の公園へ着き、のぼる君を待っていました。

しかし、予定の時間を過ぎてものぼる君は来ません。のぼる君に電話をしても、のぼる君は電話に出ません。

とうとう日が昇ってしまったため、たけし君は、あきらめて帰りました。

9時頃、たけし君のケータイにのぼる君からメールが届きました。

のぼる君「おはよー。朝電話あったけど、どうかした？」

(シミュレーションが始まります)



# メールでコミュニケーションしよう！

## このセッションの学習目標

- メールの基本的な仕組みと使い方を理解して、メールを送受信できるようになる。
- メールでは言葉づかいが悪くなったり、感情的になったりする人がいることを知り、相手のことを考えながら言葉を選んでメールでコミュニケーションする。

## 学習の流れ

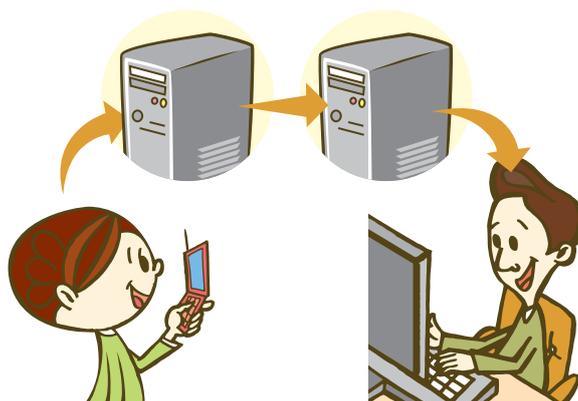
学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (13分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに、メールを使ったことがあるか問いかける。(3分)</li> <li>・子どもたちに、メールシミュレーターでメールを疑似体験させる。(5分)</li> <li>・メールの仕組みやメールでできることについて、解説コンテンツを提示しながら解説する。(5分)</li> </ul>	全体に向かって問いかける。
展開 (22分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けんかシミュレーターでメールでのけんかを体験させ、その内容についてワークシートに書かせる。(10分)</li> <li>・解説用シミュレーターを動かしながら、選択肢のところに表示された問いかけメッセージに合わせて、子どもたちにけんかにならないためにとるべき受け答えについて考えさせる。(6分)</li> <li>・子どもたちにけんかにならないように気をつけながら、仲直りシミュレーターでメールでのけんかを体験させる。(6分)</li> </ul>	<p>グループ毎にメールの返信内容を相談しながら選択するように指示する。</p> <p>子どもたちには、シミュレーションの内容がけんかであることを伝えない。けんかシミュレーターで自分が選んだ内容を振り返りながら解説を聞くことを伝える。</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにメールでのけんかの内容と疑似体験した感想をワークシートに書かせる。(5分)</li> <li>・子どもたちに感想を発表させる。(5分)</li> </ul>	<p>*ワークシート (学習テキスト 31 ページ) 解答 (ティーチャーズガイド 57 ページ)</p> <p>各班から発表させる。</p>

## 評価の観点

- 1 メールの仕組みや使い方を理解したか。
- 2 メールシミュレーター上で送られてきたメールを読んだり、他の人にメールを送ったりしたか。
- 3 メールでコミュニケーションするときに、相手を思いやる気持ちを忘れないように心がけたか。
- 4 メールでコミュニケーションするときに、言葉づかいを気をつけたか。

## メールってなに？

メールは、eメール（電子メール）の略で、携帯電話やコンピューターからインターネットなどのネットワークを介して、文字などの情報を送受信できるコミュニケーションツールです。メールは手紙と違い、文字だけでなく、画像や音声などさまざまなデータを添付して送ることができます。同じメールを一度に複数の相手に送れるだけでなく、CC（副本）という本来の受信者以外の人にも同じメールを同時に送る機能や、BCC（暗黙の受信者）という本来の受信者に知られないように同じメールを本来の受信者以外の人へ同時に送る機能など、デジタルならではの便利な機能がたくさんあります。



解説コンテンツ……「メールってなに？」



29 ページ……「メールってなに？」

## メールを体験してみよう！

### ●メールシミュレーターを起動する

ICT シミュレーターにログインし、画面の左側にある「メール」のアイコンをクリックします。

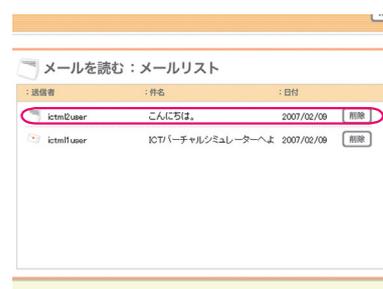


### ●メールを見る

①画面の左側にある「メールを読む」をクリックします。



②メールリストから読みたいメールのタイトルをクリックすると、メールの中身が表示されます。



### ●メールを送る

①画面の左側にある「メールを書く」をクリックします。



②あて先などの必要な情報を入力し、画面の下にある「送信」をクリックするとメールが送られます。



## シミュレーションのポイント

このセッションで、子どもたちはたけし君とのぼる君のメールによるやりとりについて各種シミュレーターを使いながら3つのステップで学習します。

## STEP 1 けんかを体験する

子どもたちにこのシミュレーションが「メールでのけんか」であることを伝えずに、けんかシミュレーターでやりとりを体験させます。子どもたちが返信する文章を選択する質問が複数用意されており、どの選択肢も相手がイライラするような内容になっています。のぼる君から送られてくる内容も、たけし君を怒らせるような文章になっており、シミュレーションが進んでいくにつれて、お互い発言がエスカレートしていきます。ここで選択した内容は、次のステップで振り返ることになるので、子どもたちに各質問で選択した内容をノートやワークシートにしっかり記録することを伝えましょう。



## STEP 2 けんかの原因を考える

解説シミュレーターが表示する天の声をヒントに、けんかシミュレーターでたけし君がのぼる君に送ったメールについて、どのような内容を返せばけんかにならなかったかを子どもたちにじっくり考えさせます。ここでは、もし自分の言葉でメールが送れたら、各質問でのぼる君に対してどんなメールを返していたかについて、ノートなどに書かせてみましょう。中には、思いやりのない内容を書く子どもがいるかもしれませんが、そのような場合は自分が書いたメールがメール相手から送られてきたら、どんな気持ちになるかについて考えさせることで、思いやりが大切なことを気づかせましょう。



## STEP 3 けんかにならないように気をつける

最後は、子どもたちに仲直りシミュレーターでけんかにならないようなメールでのやりとりを体験させます。仲直りシミュレーターは、けんかシミュレーターの各質問の選択肢に、けんかを回避するための思いやりのある発言が追加されたものです。子どもたちは、思いやりのある発言を選択していくことで、たけし君とのぼる君が待ち合わせ時刻を互いに勘違いしていたことに気がついて仲直りする過程を体験します。逆に、思いやりのない発言を選択していくと、けんかシミュレーターと同じような結末に至るようになっていきます。このステップは、前の2つのステップのまとめにあたるので、必ず行うようにしましょう。



## こんなメールには気をつけよう！

メールは手紙と同じように、送りたい相手のメールアドレスが分かれば、携帯電話からでもコンピューターからでも、気軽に送ることができます。誰でも自由にメールが送れることはとても便利なことですが、その一方で望まないメールが一方向的に送られてくることがあるのも事実です。ここでは、一方向的に送られてくるメールの例を紹介します。

### ●チェーンメール

さまざまな人々に転送されながら増殖していくことを目的としたメールを「チェーンメール」といいます。「チェーンメール」は、いわば「不幸の手紙」や「幸福の手紙」の電子メール版のようなもので、他の人へ転送する必要はまったくありません。しかしながら、多くの子どもたちは言葉巧みな表現にだまされて、友だちや知り合いについつい転送してしまいがちです。チェーンメールは、多くの人に嫌がられている存在です。もし、子どもたちのところにチェーンメールが届いたことを知ったら、メールの内容はウソが多いことや、他の人に転送せずに削除することを教えましょう。



### ●迷惑メール

自分が望んでいない広告メールや勧誘メール、無意味なメールのことを「迷惑メール」(スパムメール)といえます。迷惑メールの多くは、興味のない広告や無意味な文字や記号が羅列されたものですが、中には犯罪に巻き込まれるようなものもあります。もし、子どもたちのところに迷惑メールが送られてきたら、受信するメールを制限したり、迷惑メールフィルターを使ったり、メールアドレスを変更したりして、迷惑メールが届かないようにしてあげましょう。そのようなことができない場合は、インターネットに詳しい人に相談しましょう。



### ●架空請求メール

不特定多数に送られる偽の請求メールのことを「架空請求メール」といいます。架空請求メールは、悪意のある人や組織が、さまざまな人からお金をだまし取るために送ったものです。このようなメールは、いかがわしいウェブサイト会員登録の際に入力したメールアドレスに対して送られるケースがほとんどですが、そのような行動をとっていない大人や子どもにも架空請求メールが届くことがあります。架空請求メールの内容は法的には無効であり、そのような内容を送ることは違法行為にあたります。もし、このようなメールが子どもたちのところに届いたら、内容を確認して問題なければ削除しましょう。もし、削除しても大丈夫かどうか不安な場合は、警察や消費生活センターに相談しましょう。



## メールを送る前に確かめよう！

メールは書きあがるとすぐに送ってしまいがちです。ここでは「送信」ボタンをおす前に確認すべきポイントについて取り上げます。

### ●自分の伝えたいことがしっかり書けているか？

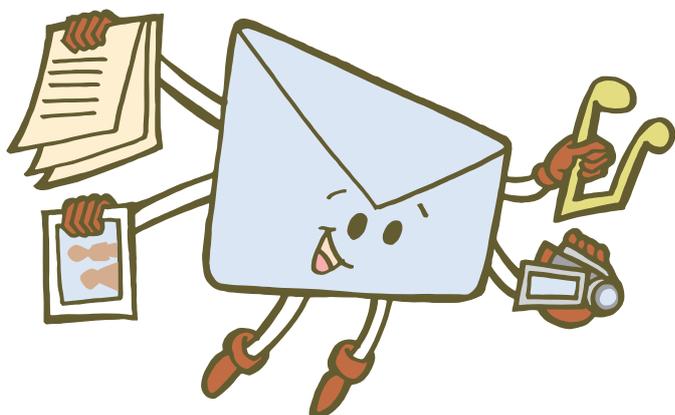
メールでコミュニケーションする場合は、直接会って話すときよりもていねいに説明しないと伝わらないことがあります。特に「あれ」や「これ」といったあいまいな表現は、相手がかん違いしてしまう原因になりやすいので注意が必要です。

### ●文字が抜け落ちていたり、間違ったりしていないか？

コンピューターや携帯電話で書いた文章は、手で書くときよりも文字が抜け落ちたり、間違えたりしがちです。送信する前にもう一度文章を確認させるようにしましょう。

### ●メールを見た相手がいやな気持ちになったり、傷ついたりするようなことは書いていないか？

メールを送る前に、相手の立場になって読み返してみることが大切です。メールを読んだ相手がいやな気持ちになったり、傷ついたりしてしまうかもしれないと感じたときには、もう一度送る内容を考え直す必要があることを教えましょう。







# ケータイを持って街へ出かけよう！

## セミナーのねらい

- ・携帯電話におけるさまざまな利用シーンを「お使いシミュレーター」で疑似体験することを通じて、携帯電話の仕組みや機能、ルールやマナーを理解し、活用する力を養う。

## セミナーを行うにあたって

所要時間 45分×1セッション（合計45分）

定員 1クラス30～40人

学習形態 体験学習

### 使用する教材・機材

コンピューター（インターネットに接続できること）	2～3人に1台以上
プロジェクターなどの大型提示装置	1台
ティーチャーズガイド	1冊
学習テキスト	参加人数分
インターネット補助教材	1式

## 学習の背景

みなさんは携帯電話が登場したのがいつ頃か、覚えていますか？

携帯電話が世の中に登場したのは、1993年頃だといわれています。そして登場以来、「持ち歩ける電話機」として、爆発的に普及しました。最近の携帯電話は、通話だけでなく、メールやネットサーフィン、カメラやGPSなど、便利な機能がたくさんついています。高機能になった「ケータイ」は、私たちの生活になくてはならない存在になりつつあります。

携帯電話を持つ人の年齢層は年々幅広くなっていますが、子どもをターゲットとした凶悪事件が相次いで発生したことを機に、2005年頃から小学生に防犯目的で携帯電話を持たせる家庭が増え始めました。今後も、基本料金の低価格化や通信料の定額化が進むことで、小学生以下の子どもに携帯電話を持たせる家庭は増えると考えられています。

携帯電話はとても便利なツールですが、バスや電車などの公共交通機関でマナーモードにすることや、カメラで撮影するときは許可をとるなど、利用に関するさまざまなルールやマナーを守らなければなりません。それだけでなく、見知らぬ人からの電話やメールへの対処、携帯電話を管理することの重要性についても知る必要があります。

このセミナーで、子どもたちはお使いシミュレーターを使った携帯電話の利用の疑似体験を通じて、携帯電話の機能や使い方、利用にあたってのルールやマナーを学び、携帯電話を正しく活用するための知識や心構えを身につけます。

## セミナーの概要

### ケータイを体験してみよう！



携帯電話の仕組みや機能を学び、お使いシミュレーターで携帯電話の利用を疑似体験します。疑似体験の過程で、携帯電話は日常生活のさまざまなシーンで役立つことや、携帯電話を使うにあたってはルールやマナーを守らなければいけないことを学びます。



## シミュレーターのシナリオについて

このセミナーで、子どもたちは隣の書店へ予約した本をお母さんのかわりに取りに行くというシナリオに沿って、携帯電話の利用をお使いシミュレーターで疑似体験します。子どもたちは、お使いシミュレーターで遭遇したさまざまな出来事に対して、あらかじめ用意された選択肢から行動を選択することで携帯電話を利用することになります。選択した行動によって、さまざまな人から注意されることがあり、その注意を受けることで携帯電話に関するルールやマナーに気づくことを狙っています。

### お使いシミュレーターで体験する出来事

#### ◆交通機関でのマナーモード

電車に乗る前に、マナーモードの設定に関する質問を出題します。ここでは、電車に乗るときはマナーモードに設定しなければならないことを知ります。

#### ◆車内での通話

乗車中に車内での通話に関する質問を出題します。ここでは、電車の中では通話してはいけないことを知ります。

#### ◆ICカードを使った乗車

携帯電話がきっぷや定期券として利用できることを体験します。(このイベントには質問がありません)

#### ◆電子マネーによる代金の支払いとQRコードを利用した予約確認

携帯電話が予約確認や商品やサービスの代金支払いに使えることを体験します。(このイベントには質問がありません)

#### ◆雑誌を携帯電話のカメラで撮影

書店で見つけた雑誌をカメラで撮影するかどうかに関する質問を出題します。ここでは、購入前の雑誌や書籍を撮影することはデジタル万引きであることを知ります。

#### ◆有名人を携帯電話のカメラで撮影

駅で見つけた有名人をカメラで無許可で撮影するかどうかに関する質問を出題します。ここでは、人の写真を撮るときは、写真を撮る前に被写体となる人に許可をとらなければいけないことを知ります。

Session  
①

# ケータイを体験してみよう！

## このセッションの学習目標

- 携帯電話の基本的な機能について理解する。
- 携帯電話の利用に関するルールやマナーを理解する。

## 学習の流れ

学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに、携帯電話を使ったことがあるか問いかける。(3分)</li> <li>・携帯電話の機能について解説コンテンツを提示しながら解説する。(7分)</li> </ul>	<p>全体に向かって問いかける。</p> <p>日常的に携帯電話を利用している子どもだけでなく、これから携帯電話を利用しようとしている子どもに配慮した指導をする。</p>
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お使いシミュレーターで携帯電話の利用を子どもたちに体験させ、イベントごとにどのような行動をとったかについてノートに書かせる。(10分)</li> </ul>	<p>お使いシミュレーターのシナリオをよく読んで学習を進めるように指導する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お使いシミュレーターを動かしながら、子どもたちが出来事ごとにどの行動を選択したかについて集計し、その出来事で行うべき行動とその理由について解説する。(15分)</li> </ul> <p>◆出来事</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①交通機関でのマナーモード</li> <li>②車内での通話</li> <li>③携帯電話を使った乗車</li> <li>④電子マネーによる代金の支払いとQRコードを利用した予約確認</li> <li>⑤雑誌を携帯電話のカメラで撮影</li> <li>⑥有名人を携帯電話のカメラで撮影</li> </ol>	<p>出来事ごとに手を挙げさせて子どもたちが選択した結果を集計する。</p> <p>③と④については、機能の紹介にとどめる</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに携帯電話の利用を疑似体験した感想や確認問題の答えを書かせる。(5分)</li> <li>・子どもたちに感想を発表させる。(5分)</li> </ul>	<p>*ワークシート (学習テキスト 36 ページ) 解答 (ティーチャーズガイド 58 ページ)</p>

## 評価の観点

- 1 携帯電話の基本的な機能や利用シーンについて分かったか。
- 2 携帯電話の利用について、日常生活と同じようにルールやマナーがあることを理解したか。
- 3 人には写真を勝手に使われない権利（肖像権など）があり、人の写真を撮るときは撮られる人の許可が必要であることを理解したか。
- 4 本や雑誌には著作権があり、作った人の許可をとらないで撮影してはいけないことを理解したか。
- 5 携帯電話やインターネットなどを上手に使うことで、生活がより便利になることが分かったか。

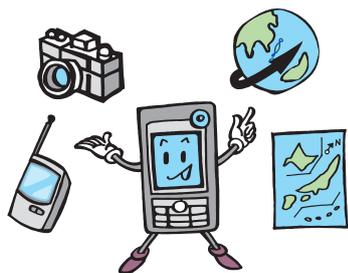
## ケータイってなに？

ケータイは、携帯電話の呼称で、文字通り持ち運び可能な電話のことです。発売当初のケータイは、家の固定電話よりも大きく、通話機能しかありませんでした。現在は手のひらに収まるくらい大きさになっただけでなく、通話以外のさまざまな機能が盛り込まれています。

ケータイは、音声やデータを全国各地にある基地局と電波でやりとりすることで、遠く離れたところにいる相手と通話やメールによるコミュニケーションを可能にしています。通話やメール以外にも、データ通信機能を利用してネットサーフィンやテレビ電話などを楽しむこともできます。

2007年4月から、ケータイにGPS機能を搭載することが法律で義務づけられます。GPSは、カーナビなどで利用されている全地球測位システムのことで、自分の居場所を調べたり、地図サービスと連携して現在地から目的地までのルートを調べることができます。その他にも、ワンセグという地上デジタル放送を受信する機能や音楽データの再生機能、防犯ブザー機能など、私たちの生活をより豊かにする機能がたくさん組み込まれています。

大人にとっても子どもにとっても魅力的な機能が満載のケータイですが、このセッションで特に注目する機能はカメラと無線ICチップです。カメラ機能を使えば、写真や動画を撮ることができます。撮影した写真や動画のデータはケータイに保存され、必要に応じて他の人にメールで送ったり、ブログや掲示板などにアップロードして公開することができます。



無線ICチップが搭載されているケータイは、電車やバスの乗車券として利用したり、商品やサービスの代金を支払う際の「電子マネー」として利用したりすることができます。

子どもたちには、ケータイの仕組みや代表的な機能を簡単に紹介し、お使いシミュレーターを使った体験学習に入る前の予備知識を身につけさせましょう。



## ケータイって、どこでも使っていいのかな？

小学校高学年になると、お使いや習い事、買い物などで行動範囲が広がり、バスや電車に乗って出かける機会が次第に増えていきます。電車やバスなどの交通機関、病院や図書館などの公共機関では、マナーモードにしたり、電源を切っておくのがマナーです。

特に交通機関では優先席付近、飛行機の機内、公共施設では病院内のケータイ使用は禁止されています。これは精密機器がケータイの電波に影響されて事故を引き起こしてしまうことがあるためです。

そのほかにも、電源を切ったり、マナーモードにしなければならない場所としては、映画館や学校の教室などがあります。みんなが集まる公共の場所では、ほかの人に迷惑をかけないこと、気配りをする必要があります。

子どもたちには、ただ禁止して命令するのではなく、「なぜ切らなくてはいけないのか」をじっくり考えさせましょう。理由がわかれば、子どもたちはどこで切るべきかを学ぶことができ、自然にマナーが身についていきます。また、マナーモードの設定や電源を切ることをうっかり忘れてしまうということもありますので、その点についてもふれておきましょう。



解説コンテンツ…… 「ケータイって、どこでも使っていいのかな？」



34 ページ…… 「ケータイって、どこでも使っていいのかな？」

## おさいふやきっぷの代わりにケータイ

ケータイは電子決済（商品やサービスの代金を貨幣データで支払う方法）機能により、代金の支払いや電車の乗り降りで使うことができます。あらかじめ、電子マネーにお金をデポジット（入金）しておくことで、入金した範囲内で利用することが可能です。これらの機能は、すべて無線 IC 技術によって実現されています。



無線 IC 技術以外にも、QR コードという二次元バーコードをケータイの画面に表示して、専用の読み取り機にかざせば、ケータイを割引クーポン券や商品の予約確認、会員証のかわりとしても利用することができます。

この2つの機能を上手に使いえば、将来おさいふや現金、カードを持たずにケータイ1つで外出できるようになるかもしれません。これは見方を変えると、ケータイがおさいふや鍵と同じく貴重品にあたるということです。

子どもたちには、お使いシミュレーターでの体験と絡めながら、この2つの機能を紹介して、ケータイがおさいふのように使えることや、ケータイを貴重品としてしっかり管理しなければいけないことを教えましょう。



解説コンテンツ…… 「おさいふやきっぷの代わりにケータイ」



34 ページ…… 「おさいふやきっぷの代わりにケータイ」

## 気をつけよう！デジタル万引き

ある男の子が学校帰りに、ちょっと本屋さんへ寄り道しました。雑誌を見ていて面白いページをみつけたから、ケータイのカメラでカシャッと撮影…。

これが今、社会的問題になっている「デジタル万引き」です。子供は盗むつもりで写真を撮ったのではなく、友達にも見せてあげようという無邪気な気持ちから行っただけかもしれません。実際に、ほとんどのデジタル万引きは、悪いという意識がなく行われています。



そこで、なぜデジタル万引きが悪いことなのか、子どもたちにじっくり考えさせることが大切になります。

子どもたちには、売り物を勝手にカメラで撮ることは、盗むことと同じであることを教えましょう。また、雑誌や本などの作品には、作者以外の人や組織に作品を勝手に使用されない権利（著作権）があります。たとえ購入したもので、写真に撮ってインターネットで公開すれば、「著作権の侵害」になってしまいますので、その点についても子どもたちに分かるようにしっかり教えましょう。



解説コンテンツ……「気をつけよう！デジタル万引き」



35 ページ……「気をつけよう！デジタル万引き」

## カメラマンのルールを守ろう！

ケータイにカメラ機能がついたことで、多くの人が気軽に写真を撮って、さまざまなところで楽しむようになりましたが、それと同時に時と場所を考えずにカメラで写真を撮ろうとする人が増えています。中でも、問題視されているのは人の写真を勝手に撮る行為です。人には自分の似顔絵や写真を勝手に使われない「肖像権」という権利があります。これは、芸能人や政治家などの有名人に限った話ではなく、すべての人が同じ権利を持っています。人の写真を撮るときは、写真を撮る前に被写体となる人から許可をとらなければなりません。写真を撮る人の中には、人の写真を勝手に撮っても大丈夫だろうという安易な考えを持った人が少なくありません。この問題は、今のところ中学生以上の子どもや大人が話題の中心に立っていますが、ケータイが小学生以下の子どもたちに普及すれば、同じ問題が起こると考えられています。



子どもたちには、お使いシミュレーターでの体験と絡めながら、人には肖像権があることや、写真を撮るときには被写体となる人から事前に許可をとらなければいけないことを教えましょう。



解説コンテンツ……「カメラマンのルールを守ろう！」



35 ページ……「カメラマンのルールを守ろう！」

## わくわく！ハラハラ？ インターネット セッション 1 インターネットについて考えよう！

年 組 番 名前

---

次の問題を読んで、( ) の中に入るキーワードを書きましょう。

① インターネットは、情報の伝わるスピードが ( )。

答え ( 速い )

② インターネットは、情報の伝わる<sup>はんい</sup>範囲が ( )。

答え ( 広い )

③ インターネットは、自分の ( ) を明かさずに使うことができる。

答え ( 名前 (個人情報などでも可) )

 インターネットを使うときに気をつけなければいけないことについて書きましよう。

\* 25 ページ「インターネットには、ハラハラもいっぱい！」(学習テキスト 13 ページ)

\* 26 ページ「インターネットを安全に使うための心構え」(学習テキスト 14 ページ)

 このセッションを受けて、気がついたことや思ったことについて書きましよう。

## 学校のステキを伝えよう！ セッション 2 ブログを使って伝えよう！

年 組 番 名前

① 次の文章を読んで、以下の質問に答えましょう。

すべての人は、自分の似顔絵や写真を勝手に使われない（ ア ）という権利けんりをもっています。ブログやけい示板じばんなどで人の似顔絵や写真を公開するときは、たとえ家族であっても（ イ ）必ず写真に写っている人から公開する許可をとらなければなりません。

質問 1. （ ア ）の中にあてはまる言葉に○をつけましょう。

① 著作権ちよさくけん

② 商標権しょうひょうけん

③ 肖像権しょうぞうけん

質問 2. （ イ ）の中にあてはまる言葉に○をつけましょう。

① 公開する前に

② 公開した後に

③ 公開が終わった後に

 ブログに書き込むときに気をつけなければいけないことについて、「個人情報」という言葉を使って説明しましょう。

\* 35 ページ「名前や住所などを書く前に考えよう！」（学習テキスト 23 ページ）

 ブログを使ってみて、気がついたことや思ったことについて書きましょう。

## 学校のステキを伝えよう！ セッション 3 ブログでコミュニケーションしよう！

年 組 番 名前

---

 他の人のブログを読んだり、コメントを書きこんだりして分かったことや気がついたことについて書きましょう。

 ブログを読んだり、コメントに書きこむときに気をつけなければいけないことについて、「いやな気持ち・思いやり・言葉づかい」という3つの言葉を使って説明しましょう。

\* 38 ページ「コメントを書くときは思いやりを忘れずに」(学習テキスト 24 ページ)

 今日の学習をふり返って、思ったことを書きましょう。

## メールでけんか! どうする? セッション1 メールでコミュニケーションしよう!

年 組 番 名前

---

① のぼるくんから送られてきたメールを見て、あなたはどのメールを送りましたか?

先生の指示に従って、自分が選んだメールの番号を答えましょう。

### ◆ 1つ目の質問

- ① なにが「どうかした?」だよ。とぼけないでよ!
- ② 今日、なんで来なかったの?

あなたが送ったメール ( 子どもの選択による )

### ◆ 2つ目の質問

- ① のぼるくんが6時って言ったから、わざわざ朝早くから起きて行ったんだよ。すごくさむかったんだからね!
- ② 昨日メールで6時に公園で待ち合わせするって約束したじゃんか! 約束破るなんてサイテー!!

あなたが送ったメール ( 子どもの選択による )

### ◆ 3つ目の質問

- ① むかつく! のぼるくんとはもうぜっこうだ!
- ② 朝の6時じゃなかったの?

あなたが送ったメール ( 子どもの選択による )

 メールでのやりとりを体験してみて、気がついたことや思ったことについて書きましょう。

## ケータイを持って出かけよう！ セッション 1 ケータイを体験してみよう！

年 組 番 名前

次の質問について、あっている場合は○を、まちがっている場合は×をつけましょう。

- ① 電車やバスの優先席の近くでは、ケータイをマナーモードにすればよい。

答え (  × )

\*電源を切らなくてはいけない

- ② 病院や飛行機など、電波で故障<sup>こしょう</sup>してしまう機械があるところでは、ケータイをマナーモードにすればよい。

答え (  × )

\*電源を切らなくてはいけない

- ③ ケータイの中には大切なデータが入っているから、他の人に勝手に使われないように、しっかり管理しなければならない。

答え (  ○ )

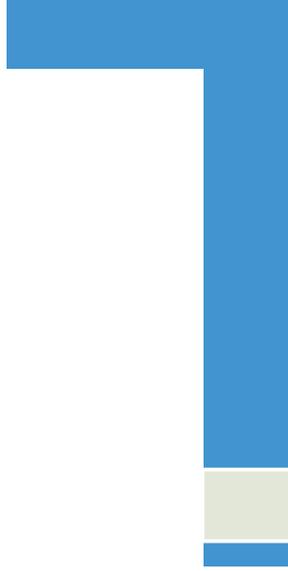
- ④ ケータイのカメラで人の写真を撮るときは、撮る前に必ず本人の許可をとらなければいけない。

答え (  ○ )

- ⑤ ケータイで買う前の本や雑誌を撮<sup>と</sup>ることは万引きと同じである。

答え (  ○ )

 ケータイを体験してみて、気がついたことや思ったことについて書きましょう。



# 教材制作協力者一覧

## 検討・評価委員会（敬称略）

### 委員長

清水康敬 独立行政法人メディア教育開発センター 理事長

### 副委員長

山西潤一 富山大学 人間発達科学部長

### 委員（五十音順）

石戸奈々子 NPO 法人 CANVAS 副理事長

猪田順一 千葉県浦安市教育委員会指導課教育研究センター 指導主事

榎本竜二 東京都立江東商業高等学校 教諭

西田光昭 千葉県柏市立土南部小学校 教諭

平野秋一郎 独立行政法人メディア教育開発センター 特定特任教授

吉田浩 茨城県つくば市教育委員会指導課 指導主事

## 調査・研究チーム（敬称略）

### リーダー

中川一史 金沢大学教育学部附属教育実践総合センター 助教授

### メンバー（五十音順）

有田浩子 鳥取県鳥取市立西郷小学校 教諭

河岸美穂 石川県立金沢伏見高等学校 教諭

小林祐紀 石川県金沢市立三谷小学校 講師

佐藤幸江 神奈川県横浜市立大口台小学校 主幹教諭

佐和伸明 千葉県柏市立旭東小学校 教諭

谷口義昌 鳥取県鳥取市立醇風小学校 教諭

松能誠仁 金沢大学 技術職員

村井万寿夫 金沢星稜大学 助教授

※協力者の所属および役職は、平成 19 年 3 月現在のものです。

平成18年度 総務省ICTメディアリテラシー教材  
伸ばそう ICT メディアリテラシー  
ーつながる！わかる！伝える！これがネットだー

調査・開発

株式会社内田洋行 教育総合研究所  
〒135-8730 東京都江東区潮見 2-9-15